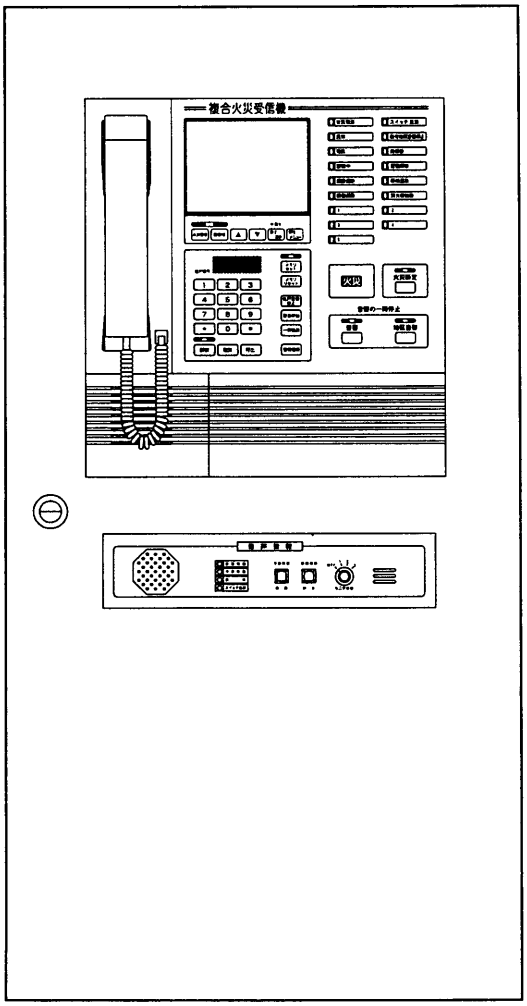
TN50797

NOHMI

複合火災受信機（リサ複合盤）

お客様用 取扱説明書

HARJ001
HCRJ001
HAVRJ001
HCVRJ001



⚠ 警告

- ●製品を正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
- ●この取扱説明書は、いつでもお読みいただけるよう、使用される所に大切に保管してください。
- ●この製品は、定期的な保守点検を必ず行ってください。

能美防災株式会社

はじめに

このたびは、当社の火災受信機をご採用いただき、誠にありがとうございます。
この製品は消防法の規格に基づく各種の試験に合格した国家検定品です。
火災発生時に備え正しくお使いいただくために、この説明書をよくお読みください。
なお、この説明書は大切に保管してください。

目　次

1．安全にご使用いただくために……2
2．使用上の主なご注意……3
3．設備された機器の構成……4
4．各部の名称とはたらき……5
5．正常な状態の確認……7
6．火災警報時の動作と対応……8
■蓄積時の動作……9
■火災断定……9
■音響の停止……9
■復旧……9
7．防火・防排煙機器の作動……10
■音響の停止……10
■連動動作による防火・防排煙機器の制御……10
■防火・防排煙機器の手動遠隔制御……10
■復旧……10
8．住戸の警報時の動作と対応……11
■警報時の表示と動作……11
■警報を受信した場合……11
■発生した警報の処置が済んだ場合……11
9．インターホン機能のご使用方法……12
■各住戸から呼出しを受けた場合……12
■呼出しを受けても管理室が不在の場合……12
■住戸を呼出す場合……12
■呼出した住戸が不在の場合……12
■集合玄関機から呼出しを受けた場合……13
■オートロックを解錠する場合……13
■管理室のドアホンから呼出しを受けた場合……13
■他の管理室から呼出しを受けた場合……13
■他の管理室を呼出す場合……13
10．住戸の緊急呼出しと放送……14
■住戸を緊急呼出しする場合……14
■各住戸へ一斉に放送する場合……14
■指定した住戸（1戸）へ放送する場合……14
11．発信機からの呼出し……15
12．故障時の警報……15
■故障時の表示と動作……15
13．メニュー操作による試験、機能設定……16
■メニューの選択……16
■メニューの終了……17
13-1．試験方法……17
■火災試験……17
■遠隔試験……18
■予備電源試験……19
■表示部試験……19
13-2．保守スイッチの設定方法……20
■保守音響停止……20
■保守地区音響停止……20
■蓄積解除……20
■自動復旧……21
■機器遮断……21
13-3．保守機能……22
■異常一覧表示……22
■時刻設定……22
■遠隔試験日時設定……23
■暗証番号の有効時間の設定……23
■設定一覧……23
■データリスト……24
13-4．連動遮断……25
■防排煙連動遮断……25
■消火栓遮断……25
13-5．移報遮断……26
■管理会社・警備会社への移報遮断（接点）……26
■火災移報接点の遮断……26
13-6．手動制御……26
13-7．呼出音量の選択……27
13-8．遠隔試験の結果……27
13-9．オートロックの暗証番号の設定……27
14．定期点検について……28
15．機器仕様……29
16．日常のお手入れについて……30
17．点検・アフターサービスについて……30

1　安全にご使用いただくために

●ご使用前にこの「安全にご使用いただくために」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

●危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「危険」、「警告」、「注意」の３つに区分しています。

「危険」：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うか、または防災機能に致命的な悪影響を及ぼすことが想定される場合。

「警告」：取扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、または防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される場合。

「注意」：取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、または防災機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合、および防災機能を長期にわたって有効に活用するうえで、ぜひ守ってほしい事項。

絵表示の見方

左の記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

左の記号は、禁止を告げるものです。

左の記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

2　使用上の主なご注意

自動火災報知設備を安全にご使用いただくために、以下の点にご注意ください。

⚠ 危　険

ガス漏れ検知器が発報した場合は、火を消してガスの元栓を締め、ガス会社に連絡してください。
また、火気や静電気を発生するものを近づけたり、換気扇など電気機器のスイッチをON･OFFすると爆発の危険があります。自然換気を行ってください。

⚠ 警　告

通常時は主音響、地区音響を停止しないでください。火災時に警報音が出ないため、避難･消火活動が大幅に遅れる危険があります。

機器の故障は速やかに契約先に連絡してください。故障を放置すると、正常に機能しない恐れがあります。

修理技術者以外は分解したり、修理･改造はしないでください。感電･故障の原因になります。

防火戸、防火シャッター、防煙タレ壁などの近くに物を置かないでください。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大する恐れがあります。

一括遮断を操作する場合は、十分注意してください。一括遮断を行うと、全ての住戸の火災、ガスもれ以外の監視を行わなくなります。

⚠ 注　意

機器の操作は必ず手で行ってください。手以外のものでは確実な操作ができず、また、機器を破壊することがあります。

火災の鎮火前に機器の復旧操作は行わないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたす恐れがあります。

受信機、発信機のまわりに物を置かないでください。緊急時の操作に支障をきたします。

受信機が正常な監視状態にあるか、常日頃確認してください。正常な監視状態にない場合、火災時に正常に動作しない恐れがあります。

各機器の正しい取扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。

火災感知器の下で多量の煙、蒸気、または高熱を発する物を使用しないでください。非火災報(※1)の原因となります。また、火災感知器に物をぶつけたり、取りはずしたりしないでください。失報(※2)の原因となります。

※1 非火災報：調理、タバコなどによる煙や熱により、火災でない場合でも煙濃度や温度が火災感知器の感度レベルに達した場合に作動することを言います。
※2 失報　　：火災感知器の設置箇所の不適切、故障などにより火災を有効に感知しないことを言います。

非火災報が出た場合は、その原因を確認してください。原因が不明な場合は専門業者に点検を依頼してください。非火災報が出た場合に電源を切ったり、音響停止スイッチを「定位」でない状態にしたままにすると、実際の火災時に正常に動作せず、被害を防止できなくなります。

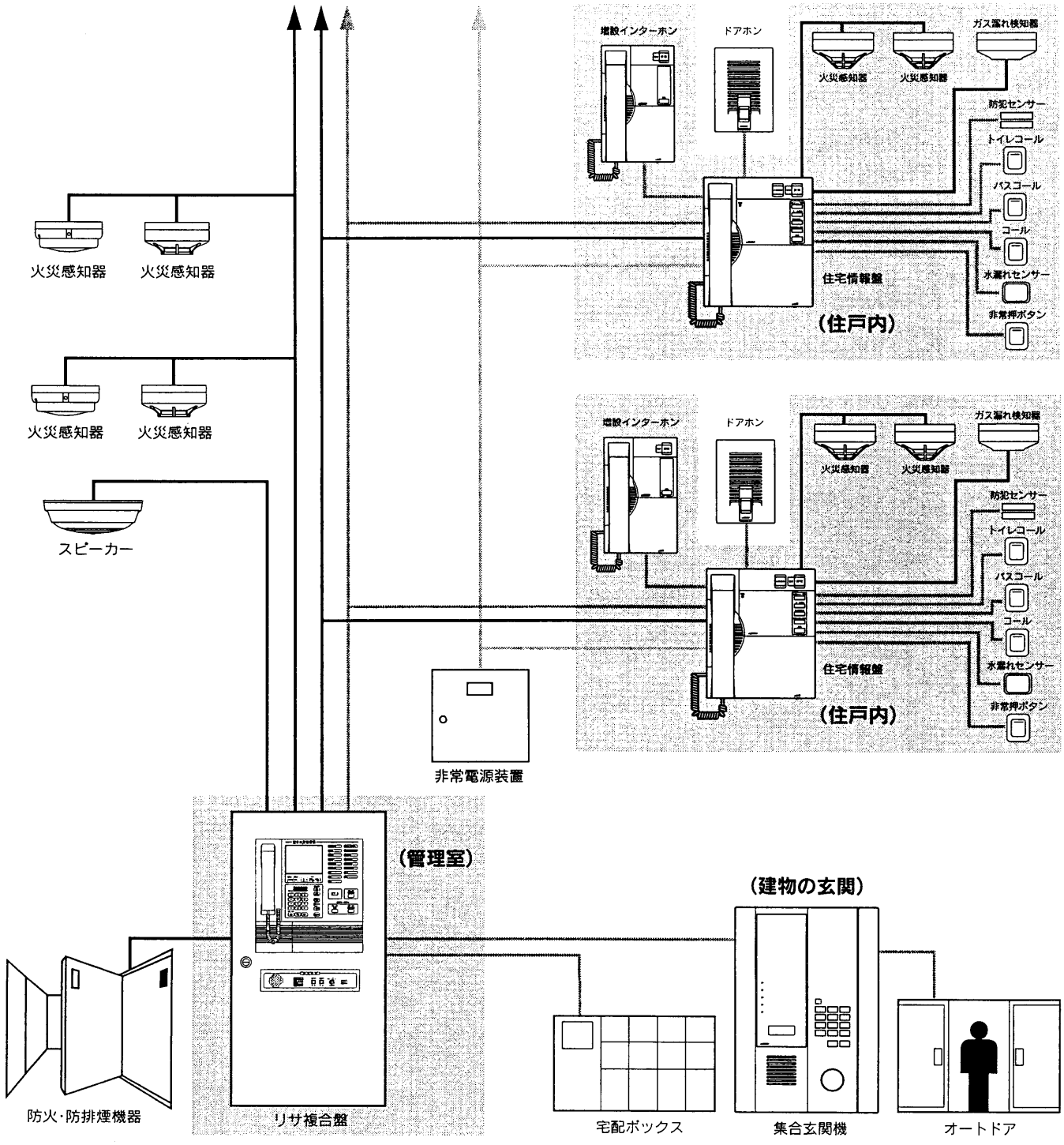
本防災システムは、法の定めるところに従って、必ず定期点検を行ってください。この定期点検を怠ると、火災時に正常に機能しない恐れがあり、その責任を問われることがあります。

3　設備された機器の構成

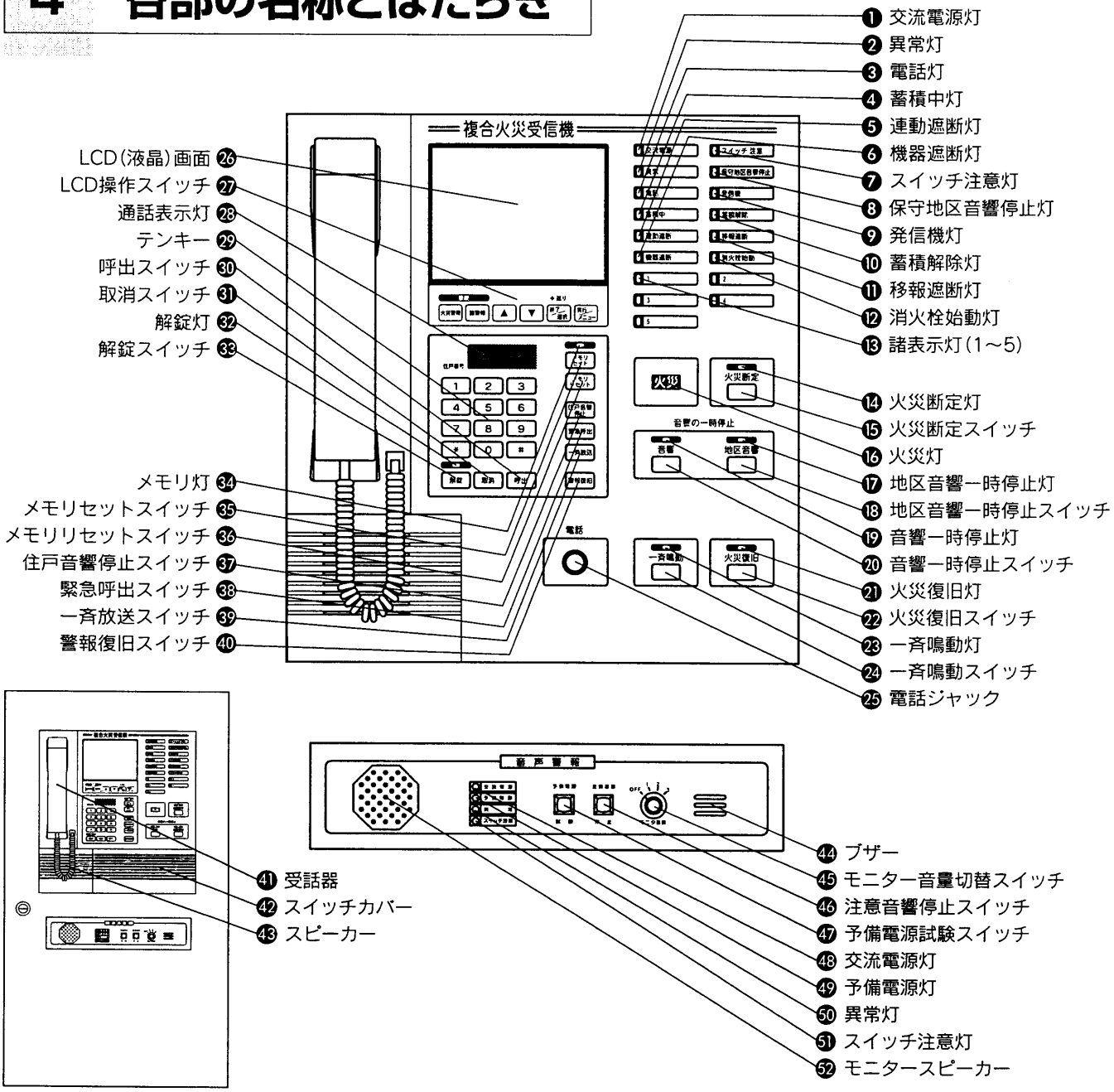
本機は、各住戸の火災警報機能の他に ■ガスもれ警報 ■非常通報 ■防犯警報 ■トイレコール ■バスコール ■水もれ警報などの異常通報を受信して、「どこの住戸でどのような異常が発生したか」を確認できる機能が備わっています。

各種警報機能の他、通話機能として、■住戸の住宅情報盤 ■建物の集合玄関機 ■管理室のドアホン ■他の管理室との通話ができます。
さらに放送機能として、指定住戸の住宅情報盤へ個別に、または全住戸へ一斉に放送することができます。

※これらの機能は、設備されるシステムにより使用できないものもあります。使用できる機能については、下図のシステム例および、施工工事店様用の工事説明書などを参考に、設備されている機器をご確認ください。



4　各部の名称とはたらき



リサ複合盤　(HARJ001／HCRJ001／HAVRJ001／HCVRJ001)

❶ **交流電源灯**……ＡＣ電源が入っている時、緑色に点灯します。(停電時は点滅します)
❷ **異常灯**……異常が発生した時、黄色に点滅します。
❸ **電話灯**……発信機から呼出された時、赤色に点滅、通話した時点灯します。
❹ **蓄積中灯**……共用部の火災感知器が「蓄積動作」中、緑色または赤色に点灯します。
❺ **連動遮断灯**……連動遮断にした時、赤色に点滅します。
❻ **機器遮断灯**……機器遮断にした時、赤色に点灯します。
❼ **スイッチ注意灯**……スイッチの状態が「定位」にない時、赤色に点滅します。
❽ **保守地区音響停止灯**…地区音響を「連続停止」状態にした時、赤色に点滅します。
❾ **発信機灯**……発信機の押しボタンを押した時、赤色に点灯します。
❿ **蓄積解除灯**……蓄積解除にした時、赤色に点灯します。
⓫ **移報遮断灯**……移報遮断にした時、赤色に点滅します。
⓬ **消火栓始動灯**……消火栓ポンプが始動した時、赤色に点滅します。
⓭ **諸表示灯(1～5)**……各設備が動作した時、赤色に点灯します。

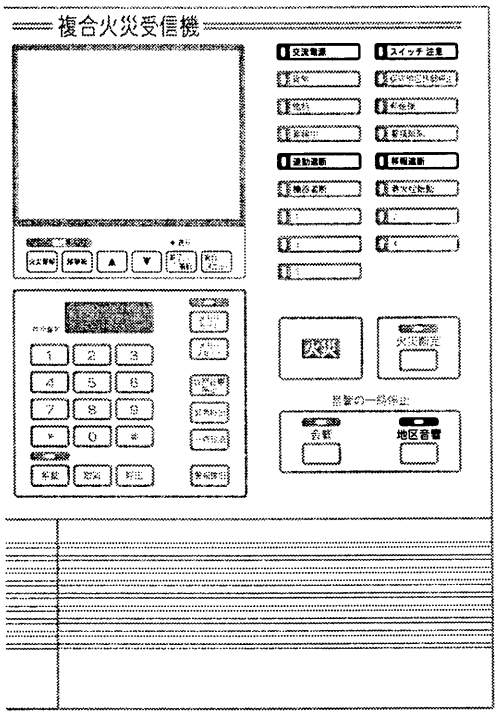
⑭ **火災断定灯**……火災断定スイッチを操作した時、赤色に点灯します。
⑮ **火災断定スイッチ**……火災時に押すと、地区音響一時停止、連動・移報遮断、保守音響・地区音響停止、自動復旧の状態が解除します。
⑯ **火災灯**……火災時、「火災」の文字が赤色に点灯します。
⑰ **地区音響一時停止灯**……地区音響を一時停止にした時、赤色に点灯します。
保守地区音響停止に設定(地区音響の連続停止)した時、赤色に点滅します。
⑱ **地区音響一時停止スイッチ**……共用部の地区音響(スピーカー)および住戸内の音響を停止する時、押します。
⑲ **音響一時停止灯**……保守音響停止に設定(盤内の音響連続停止)した時、赤色に点滅します。
⑳ **音響一時停止スイッチ**……音響を停止する時、使用します。
㉑ **火災復旧灯**……火災警報を復旧制御中、黄色に点灯します。
㉒ **火災復旧スイッチ**……火災警報を復旧する時、使用します。
㉓ **一斉鳴動灯**……一斉鳴動スイッチを押した時、赤色に点灯します。
㉔ **一斉鳴動スイッチ**……共用部全ての地区音響(スピーカー)および住戸内の音響を鳴動する時、押します。
㉕ **電話ジャック**……発信機の電話から呼出された時、付属の受話器を挿入して通話します。
㉖ **LCD(液晶)画面**……火災などの各種警報、メニュー画面を表示します。
㉗ **LCD操作スイッチ**……LCD画面の警報の後続またはメニュー画面の選択・実行する時、使用します。
㉘ **通話表示灯**……通話相手の住戸番号(その他通話機器の番号など)を表示します。
㉙ **テンキー**……通話相手の住戸番号など、数字の入力に使用します。
㉚ **呼出スイッチ**……通話する時、相手の住戸番号を入力してからこのスイッチを使用します。
㉛ **取消スイッチ**……テンキーで入力を誤った時、使用します。
㉜ **解錠灯**……オートロックを解錠した時、赤色に点灯します。
㉝ **解錠スイッチ**……集合玄関との通話中、オートロックを解錠する時、使用します。
㉞ **メモリ灯**……メモリがセットされた時、緑色に点灯します。
㉟ **メモリセットスイッチ**……呼出住戸が不在で通話ができない場合、相手の住宅情報盤に管理室から呼出しがあったことを表示する時に使用します。
㊱ **メモリリセットスイッチ**……一旦セットしたメモリを消去する時、このスイッチを使用します。
㊲ **住戸音響停止スイッチ**……火災などの警報時、または住戸の住宅情報盤の音響を停止する時、使用します。
㊳ **緊急呼出スイッチ**……緊急時に呼出したい住戸が通話中の場合、相手の住戸番号を入力し、このスイッチを押すと割り込み通話ができます。また、呼出したい住戸が警報中の場合、相手の住戸番号を入力し、このスイッチを押すと割り込み呼出しできます。
㊴ **一斉放送スイッチ**……全住戸の住宅情報盤に放送する場合、このスイッチを押して受話器の声を放送します。
※ 住宅情報盤から音響を発している住戸は放送されませんので
「住戸音響停止」スイッチを押してから使用してください。
㊵ **警報復旧スイッチ**……各住戸の警報内容を確認・処置し、安全を確認してから平常の監視状態に戻す時、使用します。
(住戸内の火災警報以外の各種警報)
㊶ **受話器**……通話する時、使用します。
㊷ **スイッチカバー**……電話、一斉鳴動スイッチ、火災復旧スイッチを使用する時、開きます。
㊸ **スピーカー**……呼出・警報時、鳴動します。

音声警報装置部

㊹ **ブザー**……異常が発生した時、鳴動します。
㊺ **モニター音量切替スイッチ**……モニタースピーカーの音量を選択する時、使用します。
㊻ **注意音響停止スイッチ**……警報音を停止する時、使用します。
㊼ **予備電源試験スイッチ**……予備電源試験を行う時、使用します。
㊽ **交流電源灯**……ＡＣ電源が入っている時、緑色に点灯します。
㊾ **予備電源灯**……停電時、緑色に点灯します。
㊿ **異常灯**……異常が発生した時、黄色に点滅します。
(51) **スイッチ注意灯**……注意音響停止スイッチの状態が「定位」にない時、赤色に点滅します。
(52) **モニタースピーカー**……共用部のスピーカーの警報音・音声警報が本機で鳴動します。

※ご注意：LCD(液晶)画面および、網掛けしたスイッチは、単独では機能しません。

5　正常な状態の確認



電源投入時のご注意

電源投入時は、地区音響一時停止、連動遮断、移報遮断状態になります。

●**『交流電源』灯『地区音響一時停止』灯が点灯し、『連動遮断』灯『移報遮断』灯『スイッチ注意』灯が点滅しています。**

◎このままでは正常な監視ができませんので、停止、遮断状態を解除してください。解除すると各スイッチの表示灯、スイッチ注意灯が消灯します。

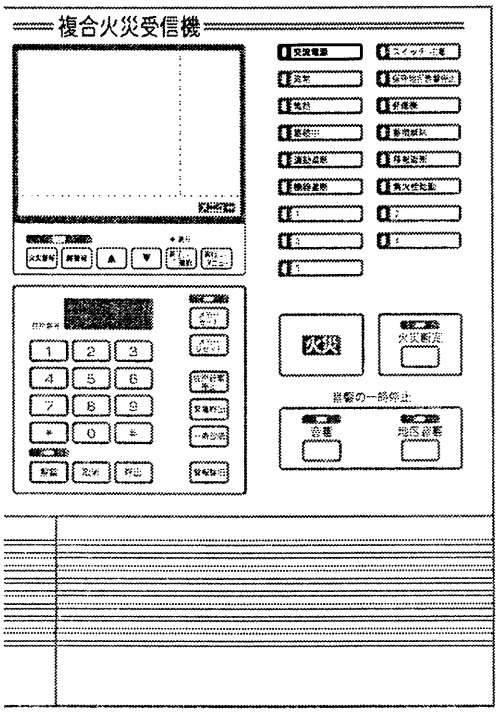
※**連動遮断の解除は[13－4.連動遮断](25頁)、移報遮断の解除は[13－5.移報遮断](26頁)を参照してください。**

◎**時刻設定**を行ってください。

※**時刻設定は[13－3.保守機能]の時刻設定(22頁)を参照してください。**

警告

受信機が正常な監視状態にあるか、常日頃確認してください。正常な監視状態にない場合、火災時に正しく動作しない恐れがあります。



日常は、次のようになっていることを確認してください。

●**『交流電源』灯が点灯しています。**

●その他の表示灯は全て消灯しています。

※正常な監視状態にない場合は**『スイッチ注意』灯または『連動遮断』灯**が点滅しています。

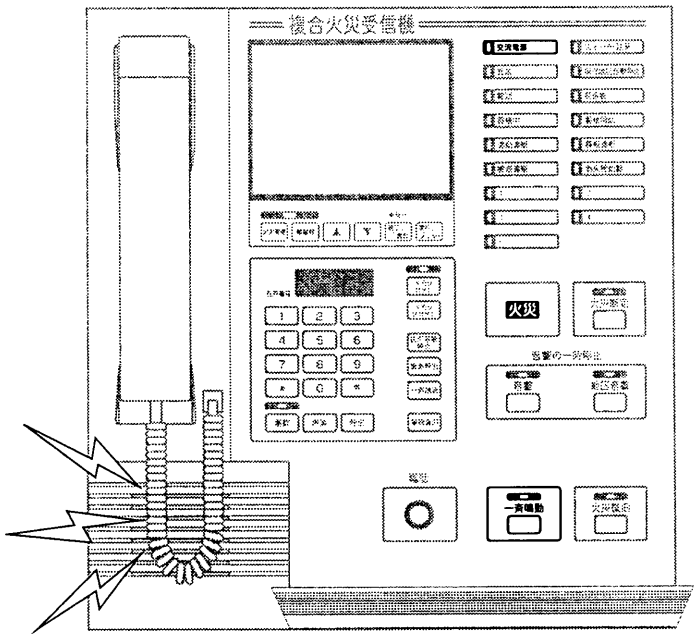
※**LCD画面は何も操作しないと一定時間経過後に消灯し、監視状態に戻ります。**

停電時の動作

停電時は、電源が自動的に予備電源に切り替わり、『交流電源』灯が点滅し、警報音〈ブーッ〉が10秒に１回鳴動します。

6　火災警報時の動作と対応

火災が発生した時、警報音〈ファンフォン〉と音声警報〈○階○○○号室で火災が発生しました〉が鳴動し、次のように動作しますので、現場の状況を把握し、適切に対応してください。



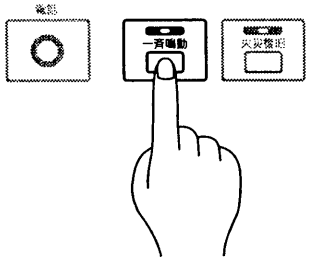
●『**火災**』灯が点灯し、LCD画面に住戸番号などを表示します。

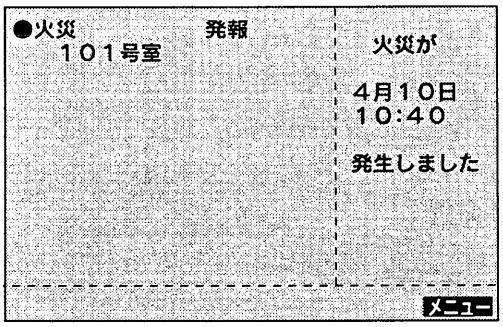
●LCD画面には第１発報地区は上部に、第2発報地区はその下部に表示します。

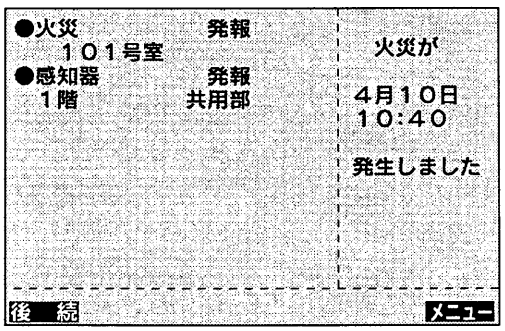
●LCD画面に【**後続**】表示がある時は、第３発報地区以上の警報がある場合です。

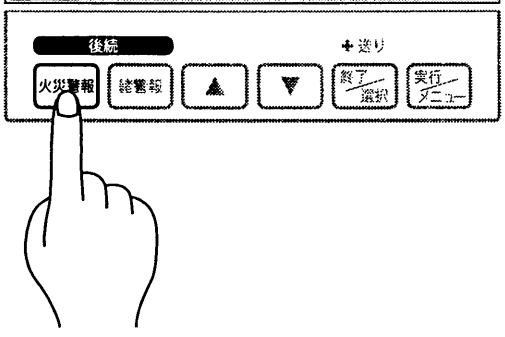
◎「**火災警報後続**」スイッチを押すと順次警報内容を表示します。

◎共用部の地区音響（スピーカー）および住戸内の音響を一斉に鳴動させる時は、スイッチカバーを開け、「**一斉鳴動**」スイッチを押してください。







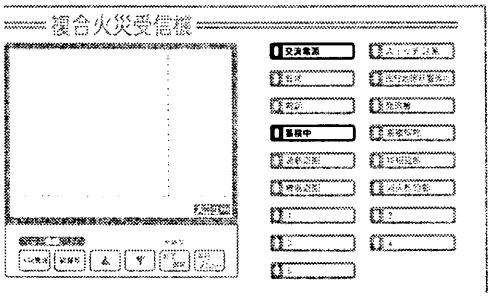


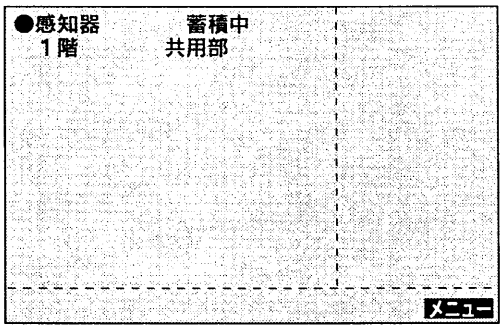
●現場で発信機が押された場合は、『**発信機**』灯が点灯します。また、消火栓始動器（移報器）が接続されている場合は、消火栓ポンプが始動し『**消火栓始動**』灯が点滅します。

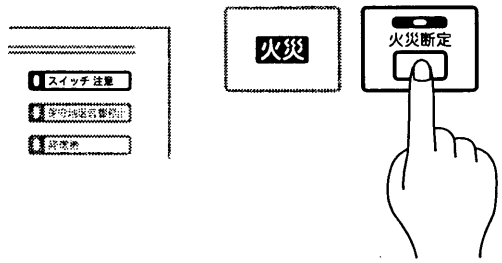
火災が発生したら、現場を確認して

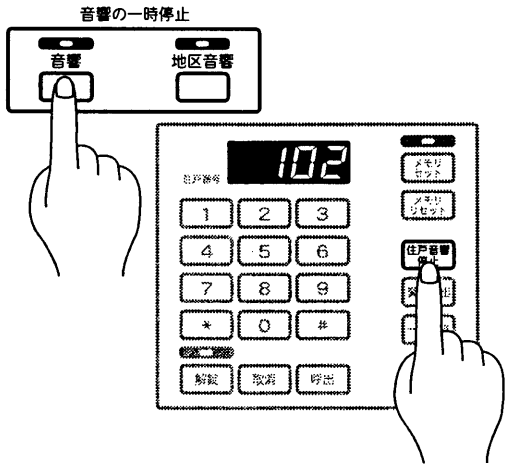
☎ 119

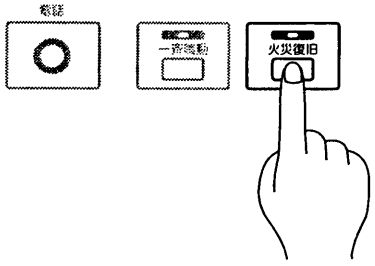
◎現場へ急行して安全を確かめたうえで、火災発生場所の確認、初期消火、避難誘導、消防署への通報を速やかに行ってください。











■蓄積時の動作

本機は、共用部に設置された火災感知器が作動した場合、一過性の作動による誤報(非火災報)を防止するため、蓄積機能を備えています。
蓄積時は次のように動作しますので、現場の状況を把握し、適切に対応してください。

●蓄積時の警報音〈ピンポン〉が鳴動し、『**蓄積中**』灯が緑色に点灯します。
●LCD画面に階・場所などを表示します。
●約9秒経過後、『**蓄積中**』灯が赤色に変わり点灯します。(火災感知器を一旦復旧します。)
●赤色に変わった後、50秒以内に再度火災感知器の火災信号を受信すると**火災警報**となります。(『**蓄積中**』灯は消灯します。)
●現場で発信機が押された場合は、蓄積機能が解除され、直ちに**火災警報**となります。

■火災断定

火災時に「火災断定」スイッチを押すと、地区音響一時停止、連動・移報遮断、保守音響・地区音響停止、自動復旧の状態を解除します。

◎「**火災断定**」スイッチを押します。
●各遮断、停止が解除され、『**火災断定**』灯が点灯し、『**スイッチ注意**』灯が点滅します。
※**「火災断定」スイッチは火災時のみ機能し、試験による火災では動作しません。**

■音響の停止

◎本機の警報音・音声警報を止めるには、「**音響一時停止**」スイッチを押します。
◎共用部の地区音響(スピーカー)、火災発生住戸以外の住宅情報盤の警報音・音声警報を止めるには、「**地区音響一時停止**」スイッチを押します。
●『**地区音響一時停止**』灯が点灯し、『**スイッチ注意**』灯が点滅します。
※**地区音響を停止しても、火災状態が一定時間経過(設定により、2分～6分)後に再度地区音響が鳴動します。**
◎火災発生住戸の住宅情報盤の警報音・音声警報を止めるには当該住戸の住戸番号を「**テンキー**」で入力し、「**住戸音響停止**」スイッチを押します。

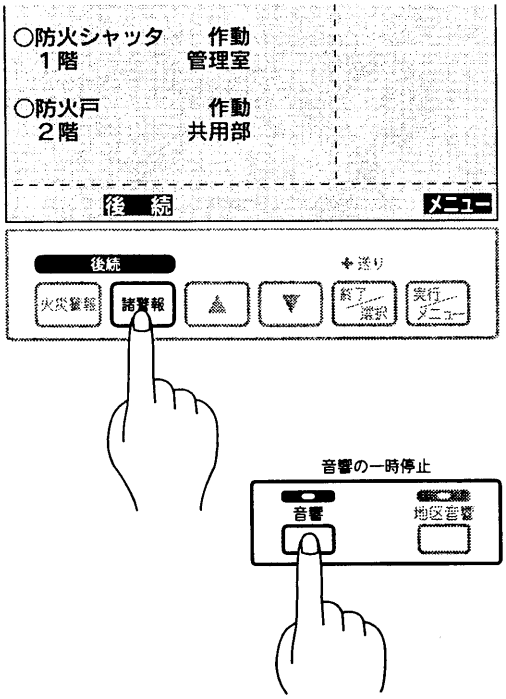
■復旧

火災発生時の処置が済み、鎮火を確認した後は、本機を正常な監視状態になるよう、次の復旧操作をしてください。

◎スイッチカバーを開け、「**火災復旧**」スイッチを押します。
※発信機が押されている時は復旧できませんので発信機を復旧してください。
※作動した防火・防排煙機器は現場で復旧してください。
※**復旧後は[5.正常な状態の確認](7頁)の確認を行ってください。**

注意
火災の鎮火前に機器の復旧操作は行わないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたす恐れがあります。

7　防火・防排煙機器の作動　（HCRJ001／HCVRJ001タイプのみ）

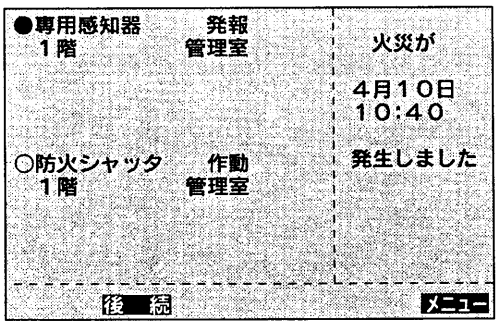


各種防火・防排煙機器が作動すると警報音〈ブー〉が鳴動し、次のように動作しますので、落ち着いて対処してください。

●端末作動音響〈ブー、**端末装置が作動しました現場を確認してください**〉が鳴動します。
●LCD画面に作動場所などを表示します。
●LCD画面には第１作動地区は上部に、第２作動地区はその下部に表示します。
●LCD画面に【**後続**】表示がある時は、第３作動地区以上の警報がある場合です。
◎「**諸警報後続**」スイッチを押すと順次警報内容を表示します。

■音響の停止

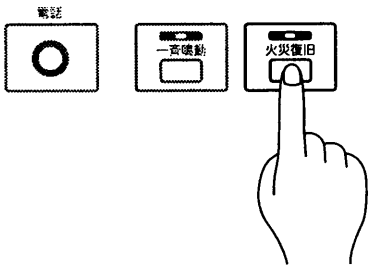
◎本機の警報音・音声警報を止めるには、「**音響一時停止**」スイッチを押します。



■連動動作による防火・防排煙機器の制御

火災感知器が作動すると、その機器に対応した防火・防排煙機器が連動して作動するものがあります。

●LCD画面に連動動作した防火・防排煙機器の制御地区を表示します。



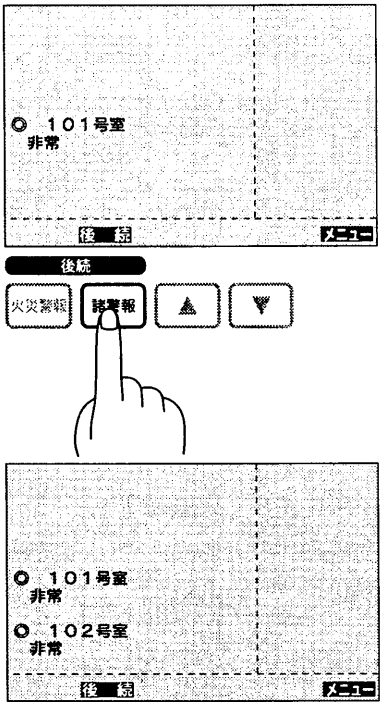
■復旧

◎防火・防排煙の制御を復旧させるには、スイッチカバーを開け、「**火災復旧**」スイッチを押します。
※作動した防火・防排煙機器は現場で復旧してください。

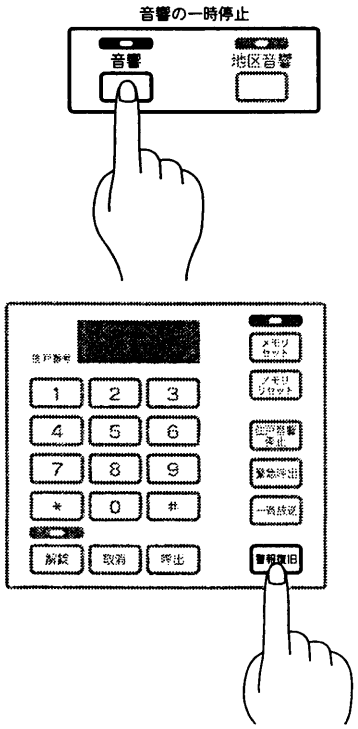
8　住戸の警報時の動作と対応

各住戸で異常が発生した時、住宅情報盤からの通報を本機が受信すると、警報音・音声警報が鳴動し、LCD画面に警報内容、発生した住戸番号が表示されます。 警報時は異常の内容を把握し、適切に対応してください。

■警報時の表示と動作



警報内容	LCD画面	警報音・音声警報
火災	●火災　　発報 ○○○号室	ファンフォンファンフォンファンフォン ○階○○○号室で火災が発生しました
スプリンクラー作動	●火災　　発報 ○○○号室 ◎○○○号室 SP放出	ファンフォンファンフォンファンフォン ○階○○○号室で火災が発生しました
ガスもれ	◎○○○号室 ガス	ピッピッピッピッピッ ○階○○○号室でガスもれです
非常通報	◎○○○号室 非常	ピーポーピーポーピーポー ○階○○○号室で緊急事態発生
防犯警報	◎○○○号室 防犯	ピーポーピーポーピーポー ○階○○○号室で防犯装置が作動しました
換気警報	◎○○○号室 換気	ピーピーピー ○階○○○号室で換気警報発生
水もれ	◎○○○号室 水もれ	ピーピーピー ○階○○○号室で水もれです
コール	◎○○○号室 コール	ポッポッポッ ○階○○○号室でコール警報発生
バスコール	◎○○○号室 コール	ポッポッポッ ○階○○○号室のお風呂に来てください
トイレコール	◎○○○号室 コール	ポッポッポッ ○階○○○号室のトイレに来てください
感知器線断線	●火災　監視線異常 ○○○号室	ピー ○階○○○号室の配線を確認してください
ガス漏れ検知器断線	◎○○○号室 障害	ピー ○階○○○号室の配線を確認してください



■警報を受信した場合

◎警報音・音声警報を止めるには、「**音響一時停止**」スイッチを押します。
◎LCD画面に【**後続**】表示がある時は、「**火災警報後続**」または「**諸警報後続**」スイッチを押します。順次、住戸番号と警報内容を表示します。
※異常の内容を把握して適切に対応してください。
※火災時の対応は[**6.火災警報時の動作と対応**](8頁)を参照してください。

■発生した警報の処置が済んだ場合

◎「**警報復旧**」スイッチを押します。
※住宅情報盤の警報を復旧させないと警報復旧できません。
※火災時は[**6.火災警報時の動作と対応**]の復旧(9頁)を参照してください。
◎復旧後は[**5.正常な状態の確認**](7頁)を参照のうえ、確認を行ってください。

9　インターホン機能のご使用方法

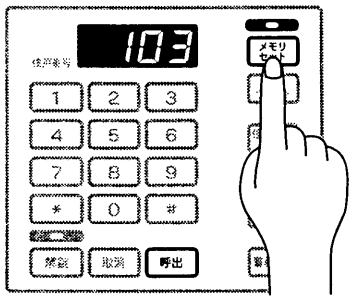
本機は、各住戸、集合玄関機、管理室のドアホン、他の管理室制御盤と通話ができます。

■各住戸から呼出しを受けた場合

●呼出音〈ピンポンパン〉が鳴動します。
◎通話表示灯に住戸番号を点滅表示し、受話器を取り上げると、点灯表示に変わり通話できます。
◎通話が終わったら受話器を元に戻します。

■呼出しを受けても管理室が不在の場合

〈メモリメッセージ〉　各住戸から呼出しがあった時に不在の場合（10秒間呼出しが続く）、呼出しがあったことが本機に記憶されます。（複数の住戸から呼出しがあった場合、20件まで記憶できます）



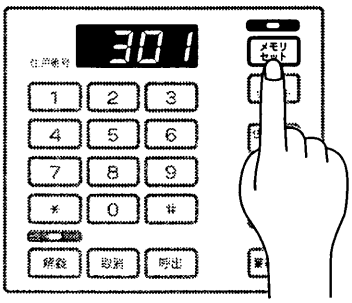
●『メモリ』灯が点灯します。
◎（受話器を取り上げずに）「メモリセット」スイッチを押すと、呼出しのあった住戸番号を表示します。
◎複数の住戸から呼出しがあった場合、「メモリセット」スイッチを続けて押すと、後続の住戸番号を表示します。
◎通話する場合は、受話器を取り上げ「呼出」スイッチを押します。
※『メモリ』灯は呼出しのあった住戸と通話するまで消灯しません。

■住戸を呼出す場合

◎受話器を取り上げ、住戸番号を「テンキー」で入力します。
●住戸番号を表示します。
◎「呼出」スイッチを押します。（相手が受話器を取ると通話ができます）
◎通話が終わったら受話器を元に戻します。

■呼出した住戸が不在の場合

〈メモリメッセージ〉　住戸を呼出しても出られずに通話できない場合、相手の住宅情報盤に用件（メッセージ）があることを表示できます。

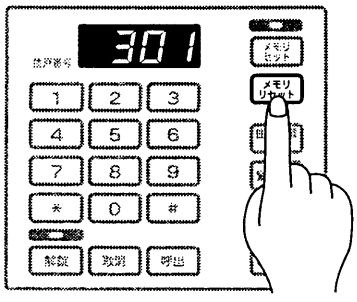


◎呼出した住戸が出ない場合、「メモリセット」スイッチを押します。
●『メモリ』灯が点灯します。
○相手の住宅情報盤では、『管理室』灯が点灯し、管理室から用件があることが分ります。

（A）メモリセットした住戸を確認する場合

◎受話器を取り上げ、「メモリセット」スイッチを押します。
●記憶した住戸番号を表示します。
◎複数の住戸を呼出した場合、「メモリセット」スイッチを続けて押すと、後続の住戸番号を表示します。

（B）用件が不要となり、メモリを消去する場合

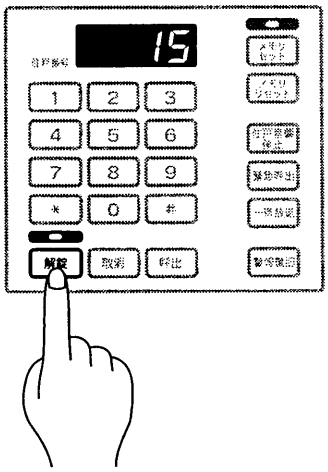


◎受話器を取り上げて、メモリメッセージを消去する住戸番号を「テンキー」で入力、または「メモリセット」スイッチを押すと、住戸番号を表示します。
※複数の住戸を呼出した場合、「メモリセット」スイッチを続けて押すと、後続の住戸番号を表示します。
◎「メモリリセット」スイッチを押します。
●表示している住戸番号を消去します。

■集合玄関機から呼出しを受けた場合

建物の玄関オートロックは安全確保のため、集合玄関機のインターホンで来訪者、用件を確認したうえで、開ける（または開けない）ことができます。

●呼出音〈**ピンポーン**〉が鳴動します。
◎通話表示灯に集合玄関機番号（11～18）を点滅表示し、受話器を取り上げると点灯表示に変わり通話できます。
◎来訪者、用件を確認後は、受話器を元に戻します。



■オートロックを解錠する場合

◎来訪者との通話中に「**解錠**」スイッチを押します。
○オートロックが解錠します。
●解錠中（約５秒間）は『**解錠**』灯が点灯します。
◎解錠後は、受話器を元に戻します。
※オートロックを開けない場合は、通話終了後、受話器を元に戻します。

■管理室のドアホンから呼出しを受けた場合（オプション）

●呼出音〈**ピンポーン**〉が鳴動します。
◎通話表示灯に『door』と点滅表示し、受話器を取り上げると点灯表示に変わり通話できます。
◎通話が終わったら受話器を元に戻します。

■他の管理室から呼出しを受けた場合

複数の管理室制御盤が設置されている場合、それぞれと通話できます。

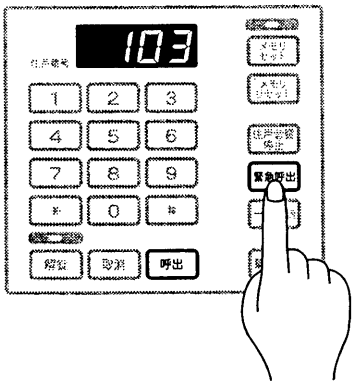
●呼出音〈**ピンポンパン**〉が鳴動します。
◎通話表示灯に管理室制御盤番号（22～24）を点滅表示し、受話器を取り上げると点灯表示に変わり通話できます。
◎通話が終わったら受話器を元に戻します。

■他の管理室を呼出す場合

◎受話器を取り上げ、「**テンキー**」で「＊」「1」に続き相手の管理室制御盤番号（2～4）を入力します。
●管理室制御盤番号を表示します。
◎「**呼出**」スイッチを押します。
●相手が管理室制御盤の受話器を取り上げると表示が消えます。
◎通話が終わったら受話器を元に戻します。

10 住戸の緊急呼出しと放送

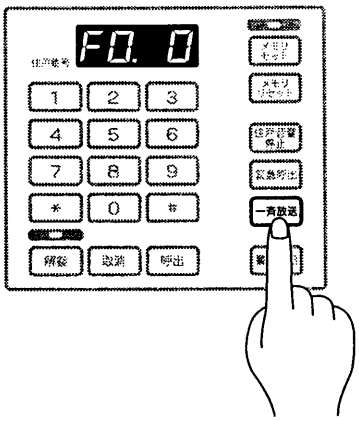
本機には、緊急時に呼出したい住戸が通話中であっても、割り込みをして通話できる機能および、住戸の住宅情報盤のスピーカーから一斉または個別に放送できる機能があります。
(放送機能は、住宅情報盤のスピーカーから音が聞こえますので、受話器を取る必要がありません)



■住戸を緊急呼出しする場合

通話中または警報中の住戸を呼出す場合、住戸番号を「テンキー」で入力し、「緊急呼出」スイッチを押します。

◎住戸を呼出した時、話中音〈ツーツー〉が聞こえたら、受話器を戻し、再度受話器を取り上げ、住戸番号を「テンキー」で入力します。
◎「**緊急呼出**」スイッチを押します。(通話中に割り込み、通話ができます。)

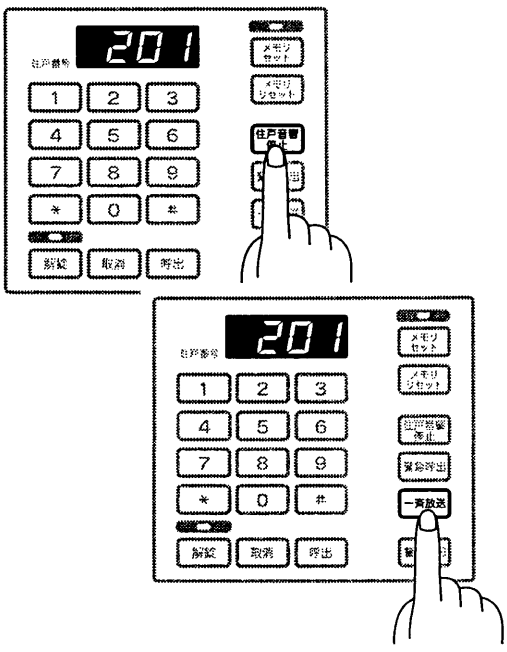


■各住戸へ一斉に放送する場合

住宅情報盤で警報音・音声警報が鳴動している時は、該当する住戸の音響を停止してください。
住戸番号を「テンキー」で入力し、「住戸音響停止」スイッチを押します。

◎受話器を取り上げ、「＊」「0」「0」を押します。
●通話表示灯に『F0.0』を表示します。
◎「**一斉放送**」スイッチを押します。

○〈**ポーン**〉という確認音が聞こえた後、受話器で話す声が各住戸の住宅情報盤のスピーカーから放送されます。



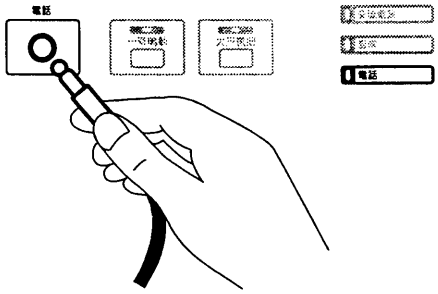
■指定した住戸(1戸)へ放送する場合

住宅情報盤で警報音・音声警報が鳴動している時は、該当する住戸の音響を停止してください。
住戸番号を「テンキー」で入力し、「住戸音響停止」スイッチを押します。

◎受話器を取り上げ、「＊」「3」に続き「テンキー」で住戸番号を入力します。
●通話表示灯に住戸番号を表示します。
◎「**一斉放送**」スイッチを押します。

○〈**ポーン**〉という確認音が聞こえた後、受話器で話す声が指定した住戸の住宅情報盤のスピーカーから放送されます。

11　発信機からの呼出し

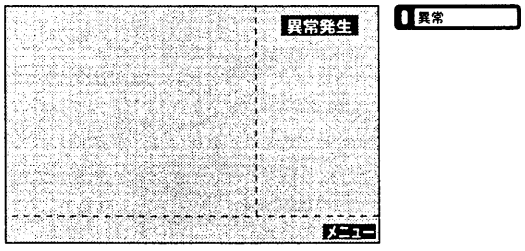


発信機から電話呼出しを受けると次のように動作します。

●『電話』灯が点滅し、呼出音〈プルルル　プルルル〉が鳴動します。
◎盤内にある付属の受話器を取出し、スイッチカバーを開け、電話ジャックに差し込むと『電話』灯が点灯します。
◎呼出音が停止し、通話ができます。

12　故障時の警報

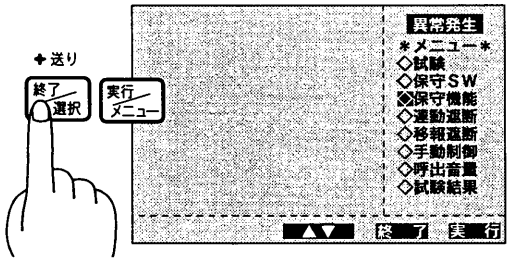
本機は、火災感知器やガス漏れ検知器、配線、電源などを常時監視しています。故障を検出すると警報音・音声警報〈プーッ　プーッ異常が発生しました〉などが鳴動し、次のように動作します。故障時は早急に点検契約先に修理を依頼してください。

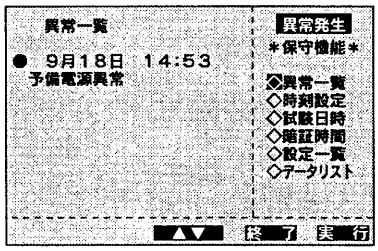


■故障時の表示と動作

故障発生時は、『異常』灯が点滅し、警報音・音声警報が鳴動します。
異常内容はメニュー画面から【保守機能】を選択、実行し、【異常一覧】を選択、実行することで見ることができます。

【異常一覧】での表示とその異常内容は次のとおりです。
※【異常一覧】の見方は[13－3.保守機能]の[異常一覧表示](22頁)を参照してください。





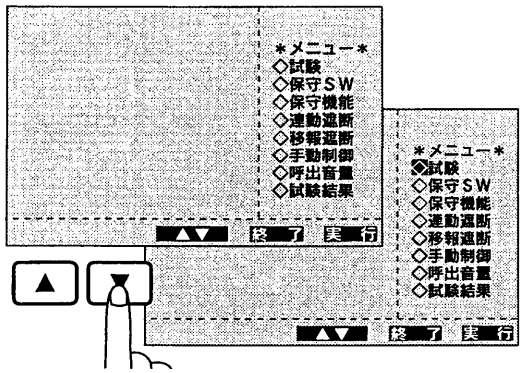
LCD画面の表示	警報音・音声警報	異常要因	異常一覧での表示
○○○○号室　試験異常	プーッ　プーッ 異常が発生しました	遠隔試験異常	－
予備電源異常		予備電源の異常	○
回路電圧異常		主電源電圧の異常	○
外部機器異常		別設備からの異常信号を入力	○
自火報部ヒューズ断	ピー 配線を確認してください	ヒューズの溶断	○
インターホン部ヒューズ断			○
●感知器監視　　伝送異常	ピー　　伝送異常です	プリント基板または コネクタの異常	－
SLU－L伝送異常　AD○	プーッ　プーッ 異常が発生しました		○
スピーカ脱落	鳴動せず		○

LCD画面の表示	警報音・音声警報	異常要因	異常一覧での表示
ＩＰ－M伝送異常	ブーッ　ブーッ 異常が発生しました	プリント基板または コネクタの異常	○
MCU－Ｌ伝送異常			○
EEPROM異常		ＩＣ部品の異常	○
RTC異常			○
音声合成異常	鳴動せず		○
コントローラＩ／Ｆ異常	ブーッ　ブーッ 異常が発生しました	警備会社との通信異常	○
住宅情報盤系統1(～3)の短絡		住宅情報盤との幹線短絡	○
住宅情報盤の無応答(住戸番号) 住宅情報盤の誤応答(住戸番号)	ピー　○階○○○号室の 伝送異常です	住宅情報盤との伝送異常	○
●火災　　未登録 ○○○号室		登録されていない住戸番号の 住宅情報盤が接続されている	－
●火災　　監視線異常 ○○○号室	ピー　○階○○○号室の 配線を確認してください	住宅情報盤に接続された 火災感知器の配線異常	－
●感知器　　監視線異常 ○階　○○○	ピー 配線を確認してください	共用部火災感知器の配線異常	－
集合玄関機系統の短絡 集合玄関機1(～8)無応答 集合玄関機1(～8)誤応答	ブーッ　ブーッ 異常が発生しました	集合玄関機との通信異常	○
管理室制御盤系統の短絡 管理室制御盤2(～4)無応答 管理室制御盤2(～4)誤応答		管理室制御盤との通信異常	○
LCD表示なし		ＩＣ部品(CPU,LCD制御用) の異常またはコネクタの異常	－

※集合玄関機から住戸へ、または管理室から住戸への通話ができない、映像が映らない場合も、早急に点検契約先に調査・修理を依頼してください。

13　メニュー操作による試験、機能設定

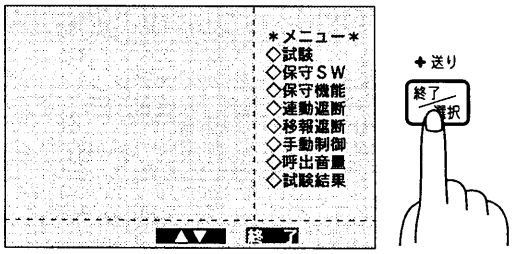
本機は、各種機能試験、保守時に設定するスイッチ、機器の設定、防火・防排煙機器の制御をLCD画面下のスイッチ操作により行うことができます。



■メニューの選択

メニューの呼出し、各機能の選択は次のように行ってください。

◎監視時、「メニュー」スイッチを押し、メニュー画面を表示します。
◎実行したい項目を「△▽」スイッチを押して選択します。
●選択された項目は◇が反転表示します。
◎「実行」スイッチを押すと、各機能の画面に移ります。



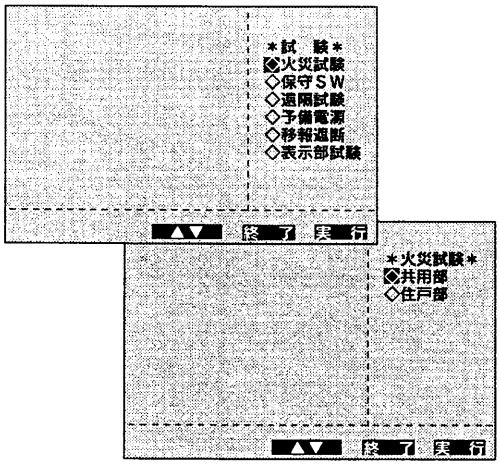
■メニューの終了

◎各メニューの画面を戻す時は、「**終了**」スイッチを押します。
●前の画面を表示します。
※監視時の画面まで操作を繰り返してください。
※LCD画面は約３分後、自動的に消灯します。

13－1 試験方法

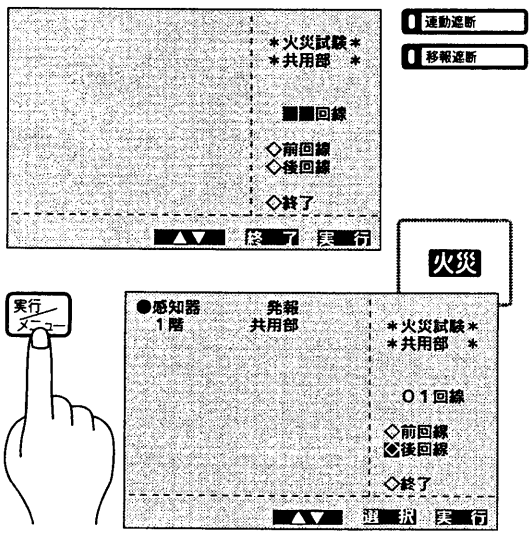
本機は正しく動作させるため、各種の試験機能を備えています。これらの試験は定期的に行い、常にシステムが正常な状態にあることを確認してください。
なお、試験は共用部火災感知器の加煙・加熱試験を伴うため、点検資格者が行うことが原則です。盤面から火災試験を操作すると、外部機器への移報（火災代表、１Ｌ）、防火・防排煙機器への連動制御は自動的に遮断します。（【移報遮断】【連動遮断】）地区音響（スピーカー）を鳴動させたくない場合は、【保守地区音響】の停止をあらかじめ設定してください。

※遮断・停止の設定方法は、[13－２．保守スイッチの設定方法][保守地区音響停止]（20頁）[13－４．連動遮断]（25頁）[13－５．移報遮断]（26頁）を参照してください。
※異常時は、点検契約先に連絡してください。



■火災試験

◎メニュー画面から「△▽」スイッチを押して【**試験**】を選択し、「**実行**」スイッチを押します。
●試験画面を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して、【**火災試験**】を選択し、「**実行**」スイッチを押します。
●火災試験画面を表示します。
◎【**共用部**】または【**住戸部**】を「△▽」スイッチを押して選択し、「**実行**」スイッチを押します。
●共用部画面または住戸部画面を表示し、『**移報遮断**』灯、『**連動遮断**』灯が点滅します。

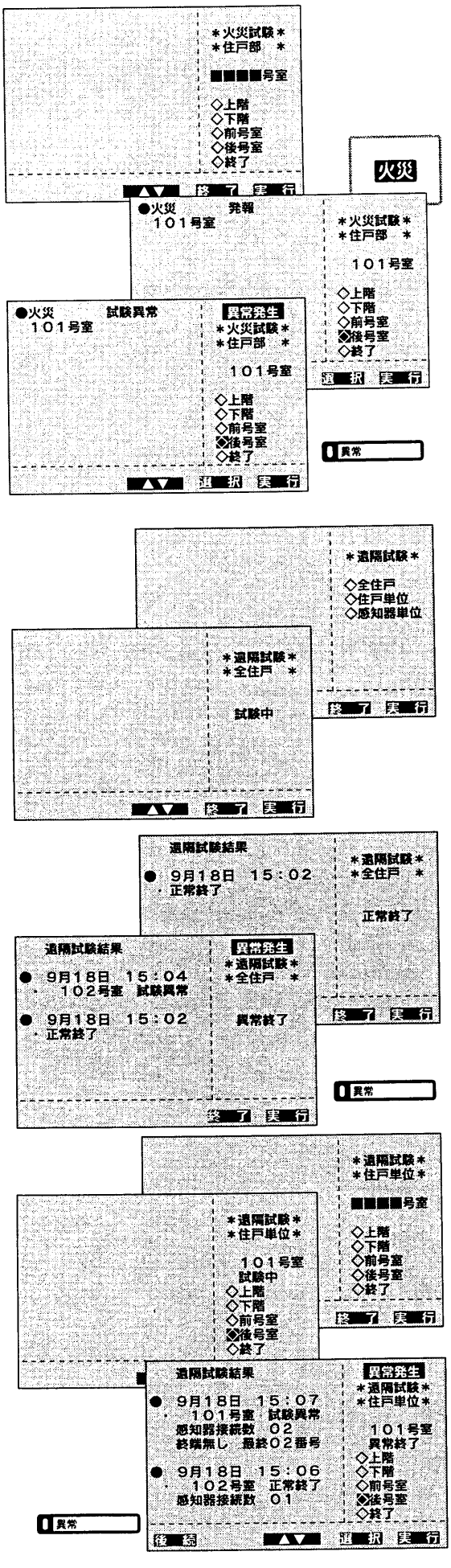


□共用部の火災試験

●【**共用部**】を選択すると、LCD画面に【**■■回線**】【**前回線**】【**後回線**】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押し【**前回線**】、【**後回線**】を選択し、「**選択**」スイッチを押して回線番号を選択し、「**実行**」スイッチを押すと、当該回線の火災試験を実行します。
◎蓄積回線を選択した場合、『**蓄積中**』灯（緑色）が点灯し、赤色に変わったのち再度「**実行**」スイッチを押すと火災表示します。
●実火災と同様に『**火災**』灯が点灯、LCD画面に階、場所などを表示し、警報音・音声警報が鳴動します。

「**復旧**」スイッチを操作しても、続けて試験が行えます。

◎別の回線を試験する場合は、「△▽」スイッチを押して【**前回線**】または【**後回線**】を選択し、「**選択**」スイッチで回線番号を選択し、「**実行**」スイッチを押します。



□住戸部の火災試験

●【住戸部】を選択すると、LCD画面に【■■■■号室】【上階】【下階】【前号室】【後号室】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して【上階】または【下階】を選択し階数を決定し、【前号室】【後号室】を選択して住戸番号を決定します。
◎「実行」スイッチを押すと、当該住戸の火災試験を実行します。
●試験した結果、正常であれば実火災と同等の表示をします。

■遠隔試験

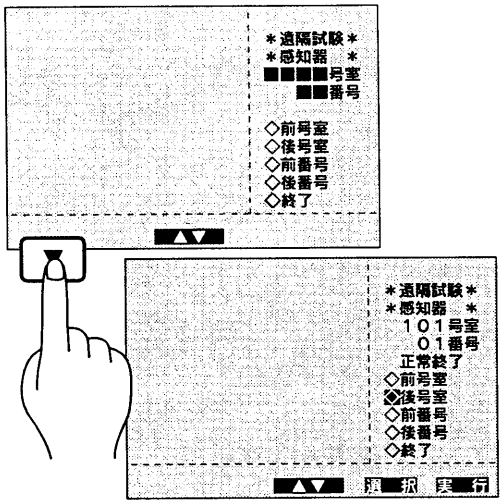
◎メニュー画面から【試験】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して、【遠隔試験】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●遠隔試験画面を表示します。
◎【全住戸】【住戸単位】または【感知器単位】を「△▽」スイッチを押して選択し、「実行」スイッチを押します。

□全住戸の遠隔試験

◎全住戸画面で、「実行」スイッチを押すと全ての住戸の火災感知器を試験します。
●試験実行中は【試験中】を表示します。
○全住戸のドアホンの警報表示灯（赤）、火災感知器の確認灯（赤）がそれぞれ点滅し、自動的に消灯します。
●試験の結果が正常の場合、試験日時と【正常終了】を表示します。異常の場合、試験日時と異常住戸番号、【異常終了】を表示して警報音・音声警報〈ブーッ ブーッ 異常が発生しました〉が鳴動します。
※全住戸の遠隔試験は最大約８分かかります。
●【終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。

□住戸単位の遠隔試験

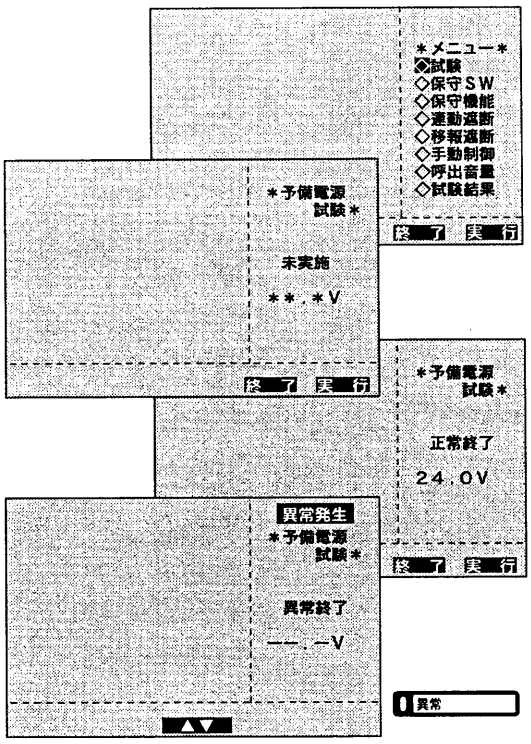
◎【住戸単位】を選択すると、LCD画面に【■■■■号室】【上階】【下階】【前号室】【後号室】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して【上階】または【下階】を選択し、「選択」スイッチを押して階数を決定し、「△▽」スイッチを押して【前号室】【後号室】を選択し、「選択」スイッチを押して住戸番号を決定します。
◎「実行」スイッチを押すと、当該住戸の遠隔試験を実行します。
●試験実行中は【試験中】を表示します。
○当該住戸のドアホンの警報表示灯（赤）、火災感知器の確認灯（赤）がそれぞれ点滅します。
●【終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。
○当該住戸のドアホンの警報表示灯、火災感知器の確認灯が消灯します。
●試験の結果が正常の場合、試験日時と【正常終了】を表示します。異常の場合、試験日時と異常感知器番号、【異常終了】を表示して警報音・音声警報〈ブーッ ブーッ 異常が発生しました〉が鳴動します。



□感知器単位の遠隔試験

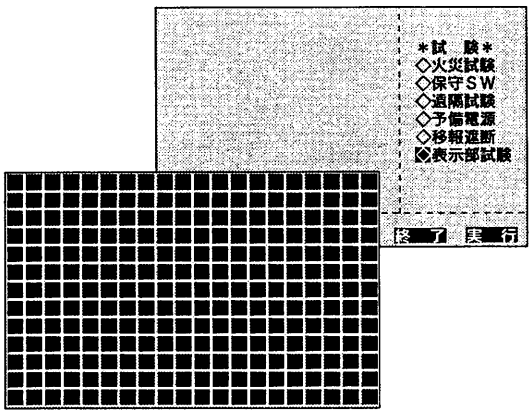
◎【感知器単位】を選択すると、LCD画面に【■■■■号室】【■■番号】【前号室】【後号室】【前番号】【後番号】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して【前号室】または【後号室】を選択し、「選択」スイッチを押して住戸番号を決定し、「△▽」スイッチを押して【前番号】【後番号】を選択し、「選択」スイッチを押して感知器番号を決定します。
◎「実行」スイッチを押すと、当該火災感知器の遠隔試験を実行します。

●試験実行中は【試験中】を表示します。
○当該住戸のドアホンの警報表示灯（赤）、火災感知器の確認灯（赤）がそれぞれ点滅します。
●【終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。
○当該住戸のドアホンの警報表示灯、火災感知器の確認灯が消灯します。
●試験の結果が正常の場合、試験日時と【正常終了】を表示し、異常の場合、【異常終了】と表示して警報音・音声警報〈ブーッ ブーッ 異常が発生しました〉が鳴動します。



■予備電源試験

◎メニュー画面から【試験】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【予備電源】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎予備電源試験画面を表示し、「実行」スイッチを押します。
●試験の結果が正常の場合、【正常終了】【○○．○Ｖ】を表示し、異常の場合、【異常終了】【－－．－Ｖ】と表示して警報音・音声警報〈ブーッ ブーッ 異常が発生しました〉が鳴動します。

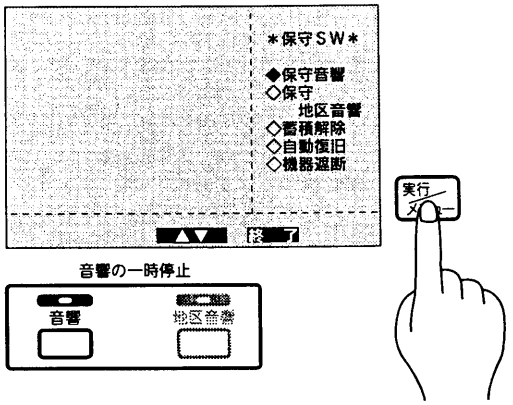


■表示部試験

◎メニュー画面から【試験】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【表示部試験】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●LCD画面全体を約５秒間表示します。
※全面が黒いマス目状態の表示であれば正常です。

13－2 保守スイッチの設定方法

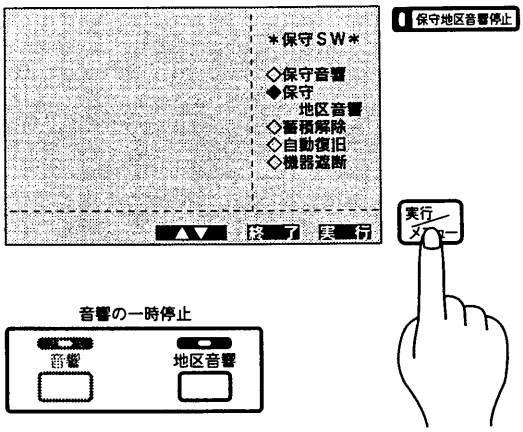
保守点検時、保守音響の停止、保守地区音響停止、蓄積解除、自動復旧、機器遮断の設定が行えます。



■保守音響停止

保守点検時、本機の警報音・音声警報を連続停止する場合、次のように操作します。

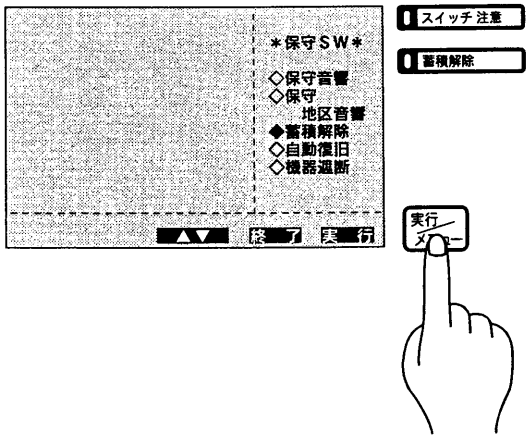
◎メニュー画面から【保守SW】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【保守音響】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●『音響一時停止』灯が点滅します。
◎設定を解除するにはもう一度同じ操作をしてください。『音響一時停止』灯が消灯します。



■保守地区音響停止

保守点検時、地区音響を連続停止する場合、次のように操作します。

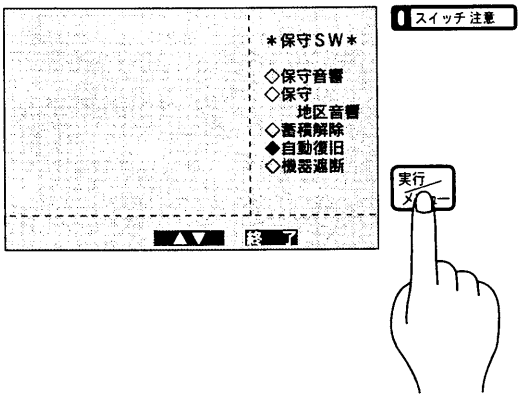
◎メニュー画面から【保守SW】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【保守地区音響】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●『地区音響一時停止』灯と『保守地区音響停止』灯が点滅し、約50秒に1回警報音〈ブーッ〉が鳴動します。
◎設定を解除するにはもう一度同じ操作をしてください。『地区音響一時停止』灯と『保守地区音響停止』灯が消灯します。



■蓄積解除

保守点検時、蓄積解除を行う場合、次のように操作します。

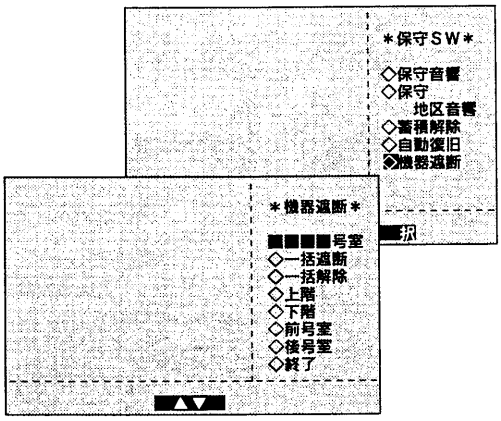
◎メニュー画面から【保守SW】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【蓄積解除】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●『蓄積解除』灯が点灯し、『スイッチ注意』灯が点滅します。
◎設定を解除するにはもう一度同じ操作をしてください。『蓄積解除』灯と『スイッチ注意』灯が消灯します。



■自動復旧

自動復旧は蓄積解除状態になり、火災警報後約８秒経過すると、自動的に火災復旧します。

◎メニュー画面から【保守SW】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【自動復旧】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●『スイッチ注意』灯が点滅します。
◎設定を解除するにはもう一度同じ操作をしてください。『スイッチ注意』灯が消灯します。



■機器遮断

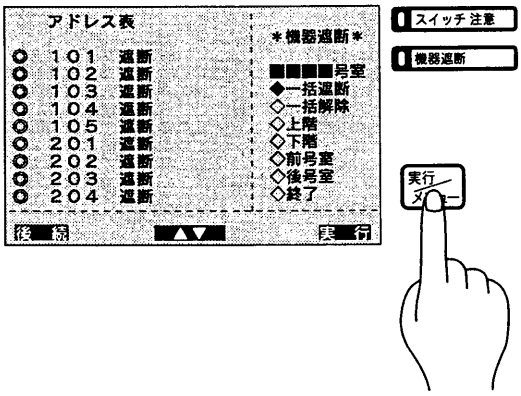
システム内の住宅情報盤を監視対象から切り離すことができます。また、機器遮断状態であっても火災、ガスもれ、換気は正常に監視します。

◎メニュー画面から【保守SW】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【機器遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●LCD画面に【■■■■号室】【一括遮断】【一括解除】【上階】【下階】【前号室】【後号室】を表示します。

□接続されている住宅情報盤を一括遮断する時

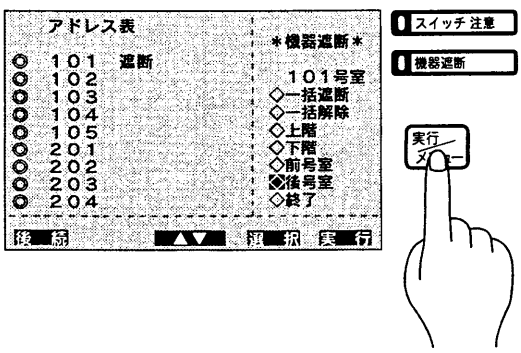
警告
一括遮断を操作する場合は、十分注意してください。一括遮断を行うと、全ての住戸の火災、ガスもれ、換気以外の監視を行わなくなります。

◎「△▽」スイッチを押して【一括遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●『機器遮断』灯が点灯し、『スイッチ注意』灯が点滅します。
※異常がある場合、異常表示が全て消灯します。



□接続されている住宅情報盤の一括遮断を解除する時

◎「△▽」スイッチを押して【一括解除】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●【機器遮断】灯【スイッチ注意】灯が消灯します。
※異常がある場合、異常表示を再表示します。



□住戸ごとに住宅情報盤を遮断する時

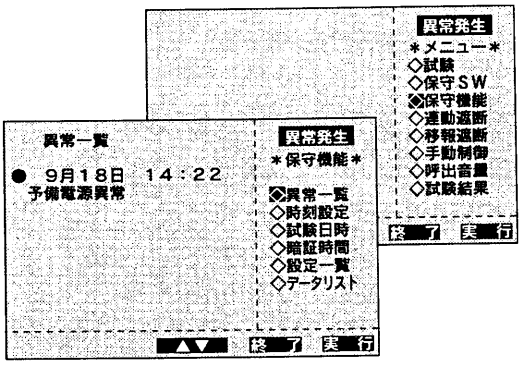
◎「△▽」スイッチを押して【上階】または【下階】を選択し、「選択」スイッチを押して階数を決定し、「△▽」スイッチを押して【前号室】【後号室】を選択し、「選択」スイッチを押して住戸番号を決定します。
◎「実行」スイッチを押すと、当該住戸が遮断され、住戸番号のあとに【遮断】と表示します。
●『機器遮断』灯が点灯し、『スイッチ注意』灯が点滅します。
※当該住戸に異常がある場合、異常表示が全て消灯します。

□住宅情報盤の遮断を住戸ごとに解除する時

◎機器遮断を住戸ごとに解除する場合、もう一度同じ操作をしてください。
●『機器遮断』灯、『スイッチ注意』灯が消灯します。
※当該住戸に異常がある場合、異常表示を再表示します。

13－3 保守機能

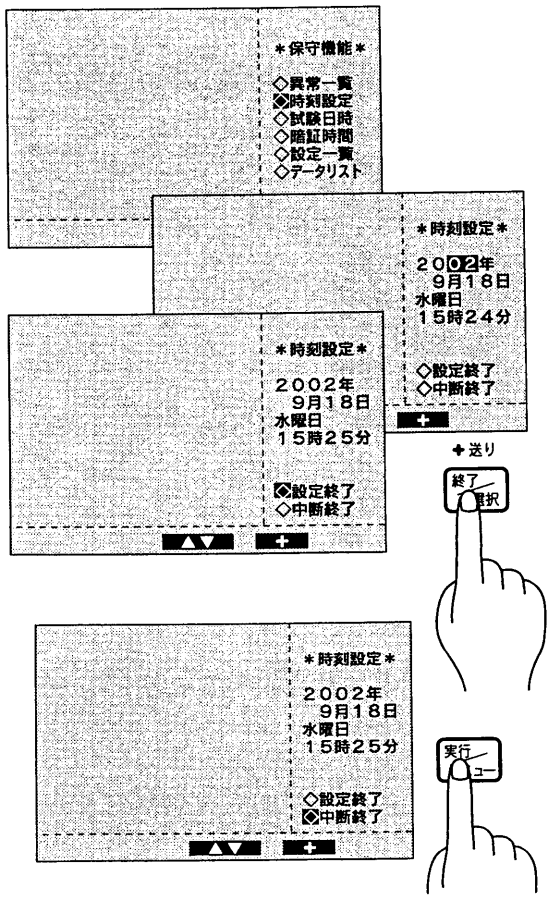
本機はメニュー画面の【保守機能】を選択すると異常一覧、設定一覧、データリストを確認でき、時刻設定、遠隔試験設定日時、暗証番号の有効時間の設定が行えます。



■異常一覧表示

異常発生時の異常日時、異常内容を確認するには、次のように操作します。

◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【異常一覧】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●LCD画面に異常発生の状況を表示します。



■時刻設定

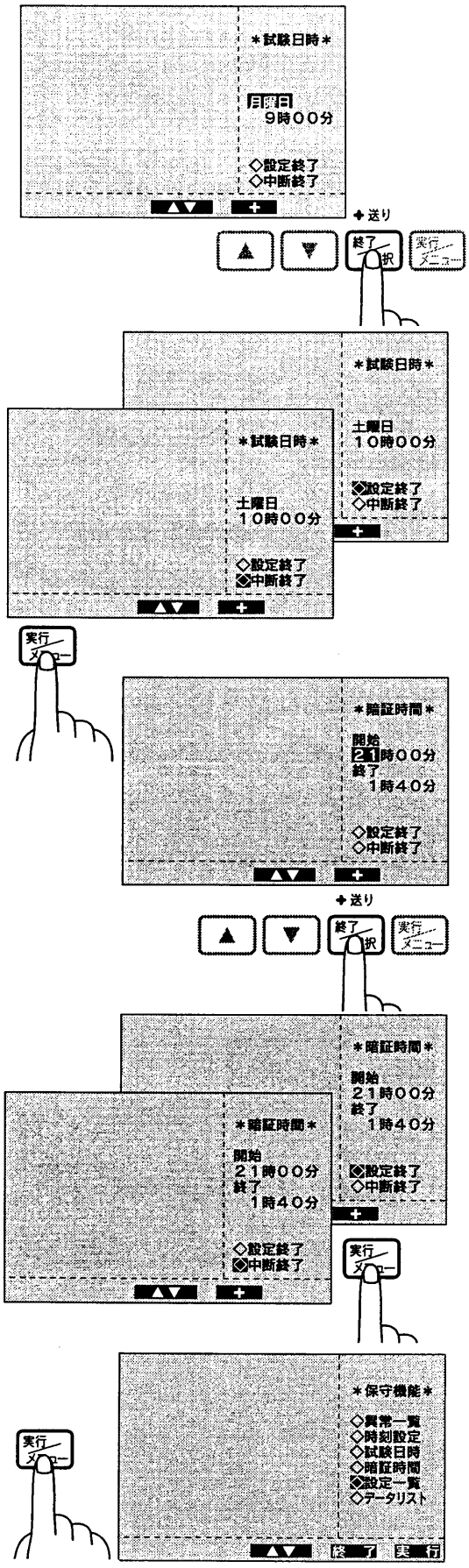
本機には、クオーツ制御の時計機能が備わっています。新規に設置した時、長時間（1時間以上）停電した時および定期点検の時には、時刻の設定を行ってください。設定を行うには次のように操作します。

◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【時刻設定】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●時刻設定画面を表示します。
●LCD画面に【西暦】【月日】【曜日】【時刻】を表示します。

◎「△▽」スイッチを押して、設定したい項目を選択します。
◎「＋」スイッチを押すと、数字が進みます。
◎設定が終わったら、「△▽」スイッチを押して【設定終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。

□時刻設定を中断したい時

◎設定を行う必要がなく元の設定状態に戻す時、「△▽」スイッチを押して【中断終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。



■遠隔試験日時設定（初期設定：月曜日9時00分）

本機は、住戸内の火災感知器を１週間に一度試験する機能が備わっています。新規に設置した時、定期点検時には試験日時の確認、設定を行ってください。設定を行うには次のように操作します。

◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【試験日時】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●試験日時画面を表示します。
●LCD画面に【曜日】【時刻】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して、設定したい項目を選択します。
◎「＋」スイッチを押すと、曜日または数字が進みます。
◎設定が終わったら、「△▽」スイッチを押して【設定終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。
※遠隔試験時、ドアホンの警報表示灯（赤）、火災感知器の確認灯（赤）がそれぞれ点滅します。遠隔試験日時を設定する時にはご注意ください。

□試験日時の設定を中断したい時

◎設定を行う必要がなく元の設定状態に戻す時、「△▽」スイッチを押して【中断終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。

■暗証番号の有効時間の設定

建物入り口のオートロックは、新聞配達員等用に設定した時間のみ有効な暗証番号により解除することができます。新規に設置した時、定期点検時には有効時間の確認、設定を行ってください。その時間は次のように設定します。

◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【暗証時間】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●暗証時間画面を表示します。
●LCD画面に【開始時間】【終了時間】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して、設定したい項目を選択します。
◎「＋」スイッチを押すと、数字が進みます。
◎設定が終わったら、「△▽」スイッチを押して【設定終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。

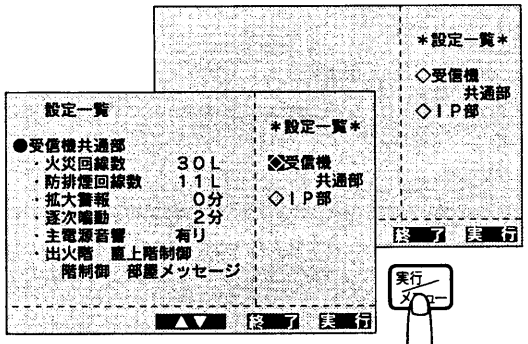
□暗証番号の有効時間の設定を中断したい時

◎設定を行う必要がなく、元の設定状態に戻す時、「△▽」スイッチを押して【中断終了】を選択し、「実行」スイッチを押します。

■設定一覧

設定状態を確認するには、次のように操作します。

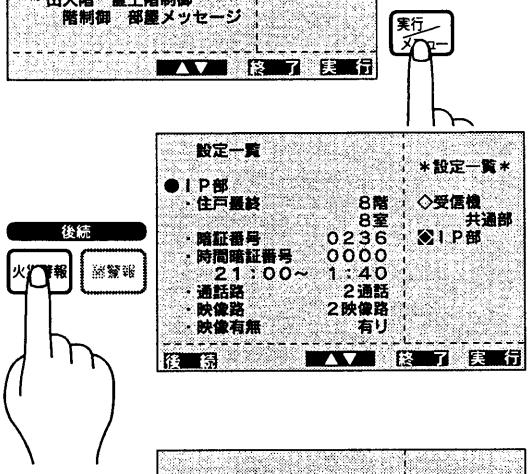
◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【設定一覧】を選択し、「実行」スイッチを押します。



●設定一覧画面を表示します。
●LCD画面に【受信機共通部】【ＩＰ部】を表示します。

□受信機共通の一覧

◎「△▽」スイッチを押して【受信機共通部】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●受信機共通部の【設定一覧】を表示します。



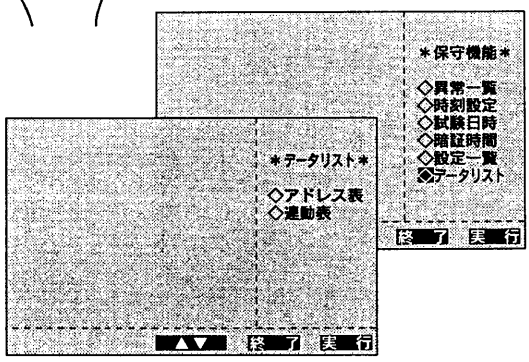
□ＩＰ(インターホン)部の一覧

◎「△▽」スイッチを押して【ＩＰ部】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●ＩＰ部の【設定一覧】を表示します。「火災警報後続」スイッチを押すと順次設定内容を表示します。

■データリスト

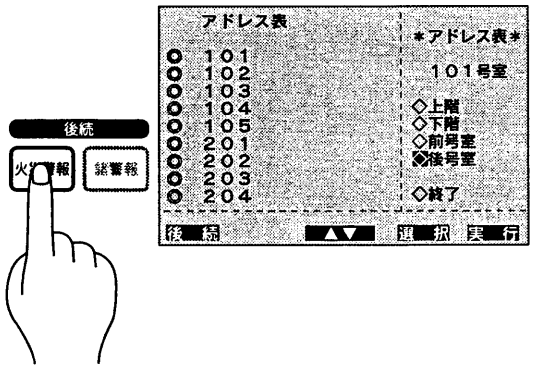
設定されている住戸番号および連動の設定状態を確認するには、次のように操作します。

◎メニュー画面から【保守機能】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【データリスト】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●データリスト画面を表示します。
●LCD画面に【アドレス表】【連動表】を表示します。



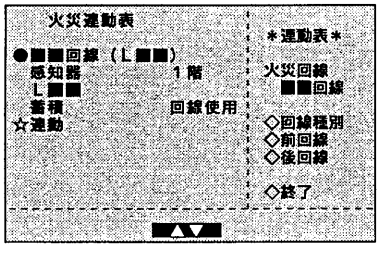
□アドレス表(住戸番号)

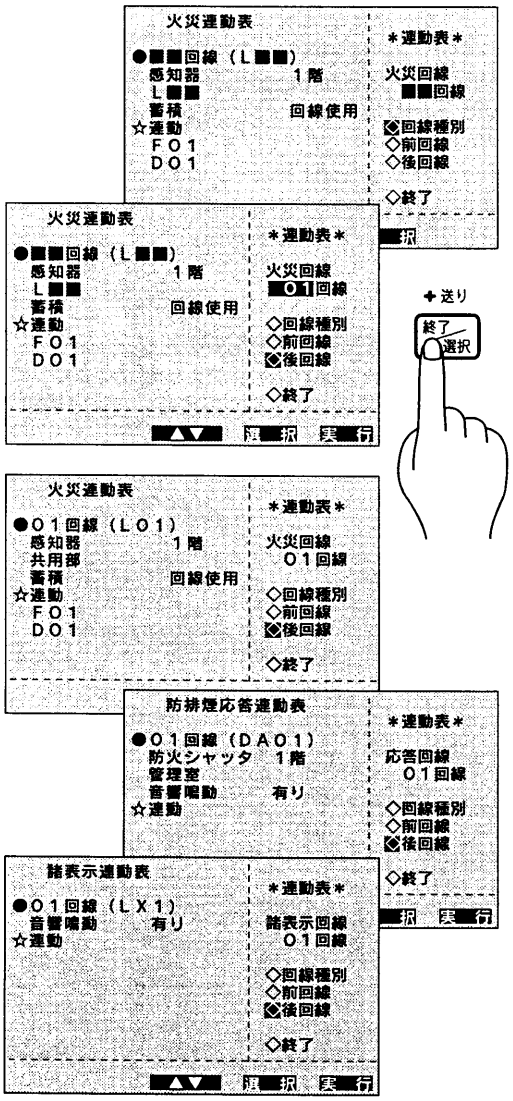
◎「△▽」スイッチを押して【アドレス表】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●LCD画面に【■■■■号室】【上階】【下階】【前号室】【後号室】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して【上階】または【下階】を選択し、「選択」スイッチを押して階数を決定し、「△▽」スイッチを押して【前号室】【後号室】を選択し、「選択」スイッチを押して住戸番号を決定します。
◎「実行」スイッチを押します。
●当該住戸をアドレス表画面の中央に表示します。「火災警報後続」スイッチを押すと順次アドレス表を表示します。



□連動表

◎「△▽」スイッチを押して【連動表】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●連動表画面を表示します。





1 回線種別の選択

連動表の種別を選択するには、次のように操作します。

●【火災連動表】が表示されています。
◎「△▽」スイッチを押して【回線種別】を選択し、「選択」スイッチを押します。
●「選択」スイッチを押すごとに【火災回線】→【応答回線】→【諸表示回線】と切り替わります。

2 回線番号の選択

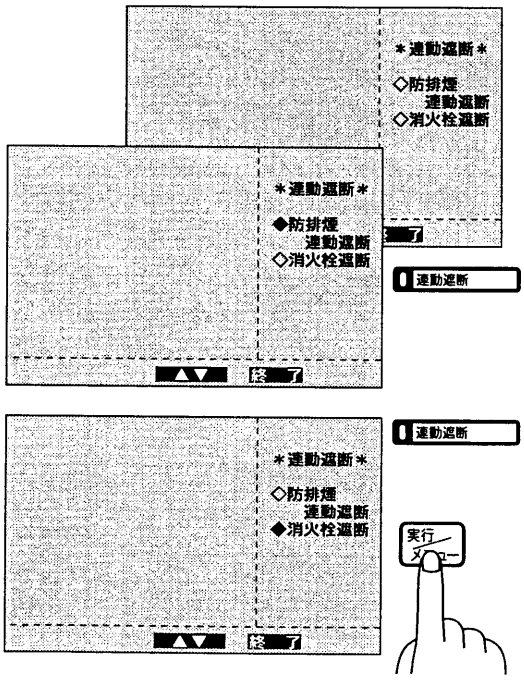
回線番号を選択するには、次のように操作します。

◎「△▽」スイッチを押して【前回線】または【後回線】を選択し、「選択」スイッチを押します。

3 連動表の表示

◎【回線種別】【回線番号】を選択した後、「実行」スイッチを押してください。該当する回線の連動内容を表示します。
◎続けて次の回線の連動内容を確認する場合、【後回線】を選択して「選択」スイッチを押し、「実行」スイッチを押します。

13－4 連動遮断



本機は、接続された防火・防排煙機器などの制御を自動的に連動する機能を有しています。点検時などに連動を遮断状態にするには次のように操作します。

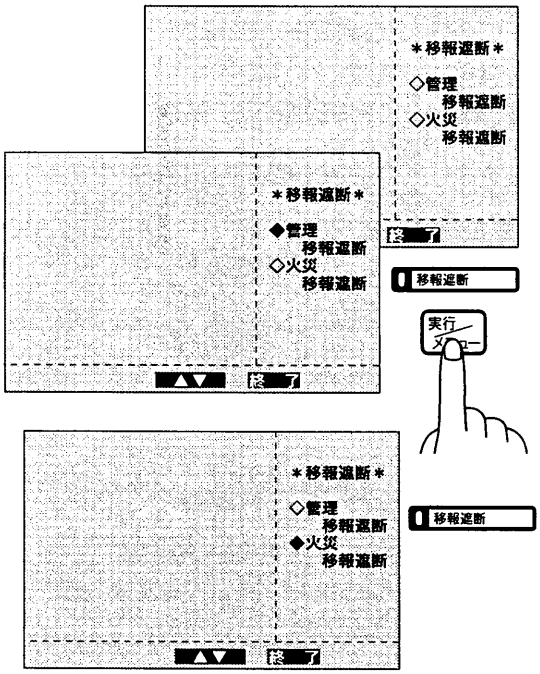
■防排煙連動遮断 (HCRJ001／HCVRJ001タイプのみ)

◎メニュー画面から【連動遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【防排煙連動遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●【防排煙連動遮断】の◇が反転します。
●『連動遮断』灯が点滅します。

■消火栓遮断

◎メニュー画面から【連動遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【消火栓遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●【消火栓遮断】の◇が反転します。
●『連動遮断』灯が点滅します。

13－5 移報遮断



本機は、火災などの警報時に管理会社・警備会社などへの移報（接点）機能を有しています。点検時などに各種移報（接点）を遮断状態にするには次のように操作します。

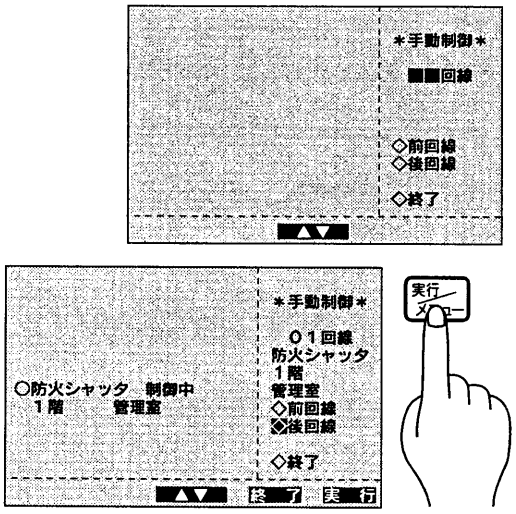
■管理会社・警備会社への移報遮断（接点）

◎メニュー画面から【移報遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【管理移報遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●【管理移報遮断】の◇が反転します。
●『移報遮断』灯が点滅します。

■火災移報接点の遮断

◎メニュー画面から【移報遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【火災移報遮断】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●【火災移報遮断】の◇が反転します。
●『移報遮断』灯が点滅します。

13－6 手動制御 （HCRJ001／HCVRJ001タイプのみ）



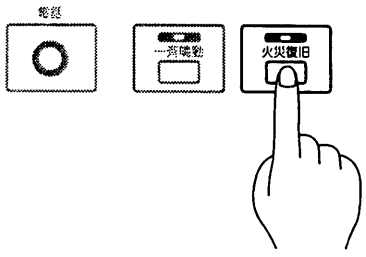
本機に接続された防火・防排煙機器などを遠隔で起動させるには、次のように操作してください。

◎メニュー画面から【手動制御】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●手動制御画面を表示します。
●LCD画面に【■■回線】【前回線】【後回線】を表示します。
◎「△▽」スイッチを押して【後回線】を選択し、「選択」スイッチを押して起動したい回線を選択し、「実行」スイッチを押します。
●起動制御を行った回線の状態をLCD画面に表示します。

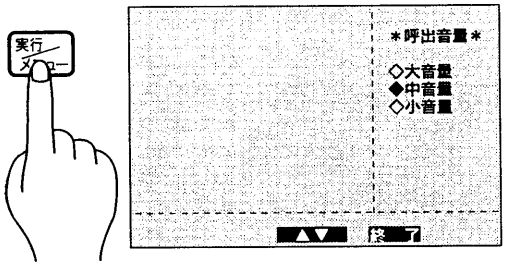
★【00回線】は使用しないでください。

■復旧

防火・防排煙の起動制御を復旧させるには、スイッチカバーを開け、「火災復旧」スイッチを押してください。
作動した防火・防排煙機器は現場で復旧してください。



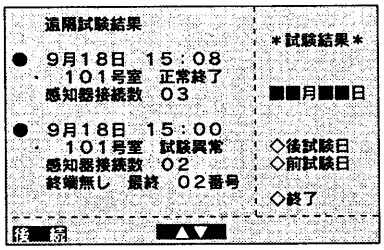
13－7 呼出音量の選択

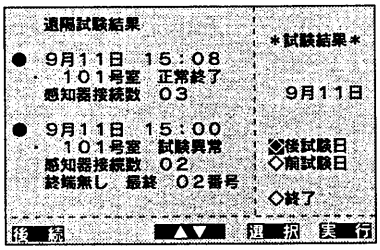


本機は、各住戸や集合玄関機から呼出しを受けた時に鳴動する呼出音の音量を設定することができます。設定を行うには、次のように操作します。

◎メニュー画面から【呼出音量】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【大・中・小音量】を選択し、「実行」スイッチを押します。
●選択した【大・中・小音量】の◇が反転します。

13－8 遠隔試験の結果





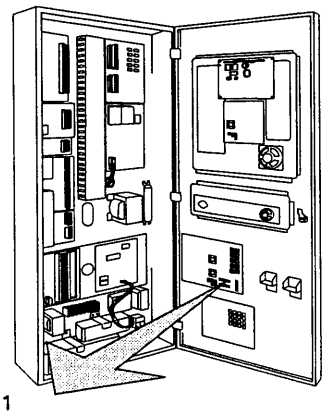
定期的に行う各住戸内火災感知器の遠隔試験の結果履歴を見るには、次のように操作します。

◎メニュー画面から【試験結果】を選択し、「実行」スイッチを押します。
◎「△▽」スイッチを押して【後試験日】を選択し、【選択】スイッチを押して「実行」スイッチを押します。
●LCD画面に遠隔試験結果を表示します。
◎「火災警報後続」スイッチを押すと順次試験結果を表示します。

■表示したい日を選択する場合

◎「△▽」スイッチを押して【前試験日】または【後試験日】を選択します。
◎「選択」スイッチを押すと試験日時が変わり、選択した日時で「実行」スイッチを押すと、その日時の試験結果を表示します。

13－9 オートロックの暗証番号の設定



暗証番号 1

（左から 0236）

暗証番号 2

建物エントランスのオートロックは、キーなどを使用して解錠する他に、集合玄関機に暗証番号を入力して開けることができます。暗証番号は4桁の数字で、盤内のロータリースイッチにより設定します。

暗証番号1は入居者用として使用し、暗証番号2は、新聞配達員等用として解錠できる時間を設定して使用します。

◎設定用のロータリースイッチは0～9の数字があります。付属の専用ドライバー（または精密ドライバーなど）を使って4桁の数字を設定してください。
（図は暗証番号1に「0236」を設定した例を示します）

※オートロックを暗証番号で解錠しない場合は、番号の設定を「0000」にしてください。
※暗証番号2の時間設定は、[13－3．保守機能]の[暗証番号の有効時間の設定]（23頁）を参照してください。

14 定期点検について

警告
連動している設備の内容を十分理解して操作してください。
不用意な操作は機器類に損害を与え、人に対して危害を及ぼす恐れがあります。

警告
修理技術者以外は分解したり、修理・改造はしないでください。
感電・故障の原因になります。

注意
定期交換の必要な部品は、指定期間で交換してください。
正常に機能しない恐れがあります。

自動火災報知設備は、いざという時に正しく動作させるために、定期的な保守点検が必要です。

消防法では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者または占有者）に対して、定期的な保守点検の実施およびその結果を報告するように定められています。
自動火災報知設備の保守点検には、専門的な知識と技術を必要とするため、消防法では資格制度を設けて、点検資格者を定めています。
したがって、施工店などと保守点検契約を結び、点検資格者による保守点検を実施してください。なお、消防法により定められている自動火災報知設備の定期点検と報告の概要を次に記します。

1 定期点検について

定期点検の種類	定期点検の期間
機器点検	６ヶ月
総合点検	１年

点検の結果は維持台帳に記録保管し、次表の期間ごとに所轄の消防署に報告しなければなりません。

2 結果報告

防火対象物の種類	報告期間
特定防火対象物	１年に１回
特定防火対象物以外のもの	３年に１回

15 機器仕様

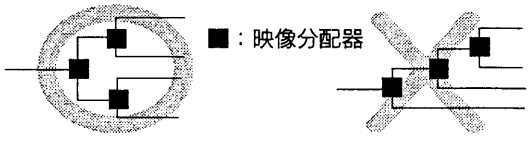
■リサ複合盤

種別		R型受信機(蓄積式及び遠隔試験機能付)			
型名	映像制御なし	HARJ001-B31-15L	HCRJ001-B53-15L30W	HCRJ001-B53-30L30W	HCRJ001-J-30L120W
	映像制御あり	HAVRJ001-B31-15L	HCVRJ001-B53-15L30W	HCVRJ001-J-30L30W	HCVRJ001-J-30L120W
構造	映像制御なし	露出・壁掛型			自立型
	映像制御あり	露出・壁掛型		自立型	
国検型式番号		受第15～2号			
主電源		AC100V±10%、50／60Hz			
消費電力	映像制御なし	警戒時:約70W	警戒時:約80W	警戒時:約80W	警戒時:約80W
		作動時:約130W	作動時:約170W	作動時:約180W	作動時:約180W
	映像制御あり	警戒時:約82W	警戒時:約92W	警戒時:約92W	警戒時:約92W
		作動時:約175W	作動時:約215W	作動時:約225W	作動時:約225W
予備電源		DC24V、3.5Ah	DC24V、6.0Ah	DC24V、6.0Ah	DC24V、6.0Ah
階数・住戸数／系統数		14階以下・300住戸／3系統(ただし、1系統に最大100住戸まで)			
共用部火災感知器回線数		15回線		30回線	
共用部防排煙回線数		なし	5回線	10回線	
諸表示回線数		5回線			
通話路・映像路		2通話路・2映像路(映像ありの場合)			
煙感知器接続個数		30個／回線、150個／受信機		30個／回線、300個／受信機	
排煙口接続数		なし	2個(通電灯15mA×2＋作動灯15mA＝45mA)		
地区音響接続数		40個(400mA)	—		
表示灯接続数		40個(840mA)			
火災代表移報		無電圧a・b接点／2回路			
管理会社移報		無電圧a・b接点5点(コモン一括)			
個別移報		無電圧a接点20点(音声警報装置または地区音響専用)			
集合玄関機接続数		8台(3台目から別電源)			
管理室制御盤接続数		3台			
音声警報装置部	局数／ワット数	—	15局／30W		20局／120W
	主電源	—	AC100V±10%、50／60Hz		
	消費電力	—	約95VA		約380VA
	予備電源	—	DC24V、1.2Ah		DC24V、4.0Ah
	スピーカー接続数	—	15系統、30個		20系統、120個
	接続スピーカー	—	(定格入力)1W／3W、(定格入力インピーダンス)10kΩ／3.3kΩ (音圧)92dB／W／m、(種類)L級		
環境条件		使用温度範囲:0～40℃、使用湿度範囲:20～85%(RH)			
主材／仕上げ		鋼板t1.6／焼付塗装半つや(オフホワイト)			
質量	映像制御なし	約38kg	約57kg	約58kg	約120kg
	映像制御あり	約39kg	約58kg	約110kg	約121kg
寸法(mm)	映像制御なし	(H)1000 x (W)530 x (D)150	(H)1300 x (W)530 x (D)180	(H)1300 x (W)530 x (D)180	(H)2000 x (W)600 x (D)300
	映像制御あり	(H)1000 x (W)530 x (D)150	(H)1300 x (W)530 x (D)180	(H)2000 x (W)600 x (D)300	(H)2000 x (W)600 x (D)300
備考		住戸用自火報	共同住宅用自火報		

■リサ複合盤(映像関係)

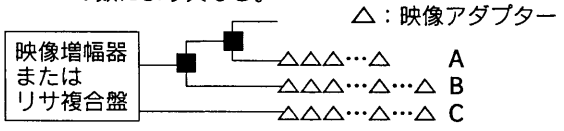
系統数		4系統
機器接続個数	カメラ付集合玄関機	8台
	映像増幅器	1台／1系統(max. 4台／4系統)
	映像分配器	最大3台／1系統　(※1)
	映像アダプター(カラーモニター)	30台/1系統 ただし、映像分配器を介する場合は、 (映像分配器 1台を介する場合) 30台/ 1系統 (※2) (映像分配器 2台を介する場合) 20台/ 1系統 (※2)
外部配線抵抗、配線距離など		カメラ付集合玄関機まで 6Ω(0.01μF)以下、100m (最遠端距離) 映像増幅器まで 9Ω(0.015μF)以下、150m (最遠端距離) カラーモニターまで 9Ω(0.015μF)以下、150m (最遠端距離) (※3)
終端処理		映像分配器を接続した場合は、最終端の映像アダプターの出力に、映像分配器に付属されているHZE011型映像用終端器を接続。

(※1)　映像制御の1系統または、映像増幅器の1系統につき3台まで接続可能。
ただし、以下の○の接続に従うこと(×は不可)。



(※2)　映像アダプターの接続個数は、介する映像分配器の数により異なる。

△：映像アダプター



A＝映像分配器を2台介しているので、20個まで
B＝　〃　1台介　〃　30個まで
C＝　〃　0台介　〃　30個まで

(※3)　映像分配器を1台介した場合は120m、2台介した場合は100mとなります。

16 日常のお手入れについて

●本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れが落ちにくい時は、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布にひたし、よく絞ってから拭いてください。その際本機に水などがかからないようご注意ください。
●ベンジン、シンナーなどの薬品は、機器の表面を傷めたり、変色の原因になりますので使用しないでください。
●お手入れの際に受話器が確実にフックにかかっていること、また、カールコードが不自然にねじれていないことを確認してください。

17 点検・アフターサービスについて

■火災警報機能の定期点検

本機および住戸の住宅情報盤が、共同住宅用自動火災報知設備として設置されている場合、火災警報機能については法律に定められた6ヶ月毎の定期点検が必要です。
保守点検は専門的知識と技術を必要とするため、管理会社と契約を結んだ施工店など、消防設備士などの資格を持った人が行います。

■ガス漏れ検知器の有効期限

各住戸に設置されたガス漏れ検知器は、有効期限として、その機能を維持する期間が定められています。
期限が過ぎると正常に作動しない恐れがありますので、検知器の説明書・保証書に記載された保証規定を確かめたうえ、期限が来る前に管理会社・施工店などに依頼し、交換する必要があります。

■日常点検のお願い

建物および住戸内には、消防用自動火災報知設備として、共同住宅用住宅情報盤や火災感知器などが設置されています。(建物によってはスプリンクラー設備が設置されている場合もあります。)
これらは自動的に火災を感知して報知するための設備です。万一の火災に備え、常に正常に作動するよう、設備についての日常の点検をお願いいたします。
日常の点検で異常があった場合は、すみやかに施工店などに連絡してください。

■アフターサービスについて

●この製品には2年間の保証が付いています。機器保証書は、取付け工事をした電気工事店にてお取り付け日・店名・住所を記入・捺印していただき、大切に保管してください。
●万一故障した場合は、機器保証書をご確認のうえ、取り付け工事をした施工店、もしくは下記のお問い合わせ先にお申し付けください。
●能美防災株式会社・CSサービスセンター
TEL:0120-102-408
●能美防災株式会社最寄りのお問い合わせ先(背表紙参照)

●修理を依頼される前に下記事項をご確認ください。
◆製品名(型名)・お買い上げ日(お取り付け日) ◆故障または異常の内容 ◆ご住所・お名前・電話番号 ◆訪問ご希望日

警告
機器本体を取りはずさないでください。

[補修用性能部品について]
●この製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、生産中止後6年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

◎使用中、故障や誤動作またはこれらの不都合により通話利用の機会を逸した場合の損害補償については、申し受けかねますのでご了承ください。

NOHMI 能美防災株式会社

本　社／〒102-8277　東京都千代田区九段南4-7-3　TEL.(03)3265-0211　FAX.(03)3263-4948

支　社／	北海道	(011)746-6911	東　北	(022)221-2695	新　潟	(025)228-0281	東　京 (03)3265-0401
	茨　城	(029)225-2600	北関東	(048)642-0147	千　葉	(043)266-0303	西関東 (0426)27-4930
	横　浜	(045)682-4700	長　野	(026)227-5521	静　岡	(054)247-3211	名古屋 (052)915-2411
	金　沢	(076)252-6211	大　阪	(06)6330-8661	京　都	(075)231-0128	神　戸 (078)334-3581
	広　島	(082)263-7334	岡　山	(086)244-4222	九　州	(092)712-1560	熊　本 (096)360-1051
営業所／	旭　川	(0166)23-7823	帯　広	(0155)25-4900	青　森	(017)729-0532	盛　岡 (019)645-0552
	秋　田	(018)862-5086	郡　山	(024)933-5580	福　島	(024)528-4195	上　越 (0255)26-1886
	羽　田	(03)3747-6800	渋　谷	(03)3461-1051	杉　並	(03)3306-0451	城　東 (03)3645-8300
	池　袋	(03)3984-1031	高　輪	(03)3447-4574	土　浦	(0298)22-3851	宇都宮 (028)637-4317
	群　馬	(027)328-1567	埼玉西	(049)247-4640	メヌマ	(048)588-2893	川　崎 (044)233-5773
	沼　津	(055)923-9669	浜　松	(053)473-3422	岐　阜	(058)276-7761	三　重 (059)226-9860
	富　山	(076)425-1496	福　井	(0776)21-0056	高　松	(087)862-6012	徳　島 (088)625-4325
	松　山	(089)974-2823	北九州	(093)551-2588	長　崎	(095)845-0135	大　分 (097)543-2778
	宮　崎	(0985)28-8792	鹿児島	(099)253-8196	沖　縄	(098)862-4297	
工　場／	三　鷹	(0422)44-5141	メヌマ	(048)588-1531			

02K